

重点項目1 魅力ある観光・交流の拡大

中項目1 地域の魅力づくりの推進	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆☆☆	◎15・○1・△0 (2×15+1×1+0×0)/16 = 1.9 → ☆☆☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
1	「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」として、国内外のより多くの観光客から旅行先として選ばれる、「世界に通用する競争力の高い観光地域」を目指します。	推進	→	→	→						他地域との差別化を図り「日本の顔」となるブランド化を目指し、次の取組みを実施した。 1 ツーリズムEXPOジャパンへの出展による首都圏で情報発信(H27～H30) 2 行政エリアを越えた広域連携によるプロモーション、ファムツアーの実施(H27～H30) 3 観光地域づくりマネージャーの育成(H27:2名, H28:2名, H29:2名, H30:2名) 4 (一社)そらの郷が「日本版DMO」に登録(H29) 5 「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」の第3期観光圏認定(H30.4)	
	●圏域内延べ宿泊客数（暦年）【主要指標】 ㉕17.3万人→㉖22万人	18万人	18.5万人	21.4万人	22万人	20.6万人	21.4万人	22.5万人	22万人	◎	上記の取組み等により、「日本の顔」となるブランド化が図られた。	
2	交流人口増加による地域活性化を図るため、剣山登山や集落めぐり、吉野川八合霧鑑賞など、にし阿波ならではの体験ができる着地型旅行商品や滞在プログラムの開発を促進します。	促進	→	→	→						1 高地傾斜地集落めぐりや吉野川八合霧鑑賞など、にし阿波ならではの着地型旅行商品のプロモーション・販売を促進し、実行した。(H27～H30) 2 民間観光施設において、中華圏の春節祭に併せたイベントを実施した。(H27～H30) 3 「住んでよし、訪れてよしの観光地域づくり」をコンセプトにし阿波体感プログラムイベントを「あわこい」として開催するとともに、通年楽しめるプログラムとして催行した。(H27～H30) 4 剣山を起点としたロングトレイルや集落巡りなど、新たな滞在プログラムを造成し、情報発信を行った。(H29) 5 サイクリング、カヤックなどのアクティビティや地域の伝統文化を素材にした交流プログラム等を造成し販売を開始した。(H30)	
	●着地型旅行商品（滞在プログラムを含む）の参加者数 ㉕305人→㉖750人	400人	500人	550人	750人	585人	673人	703人	902人	◎	上記の取組み等により、着地型旅行商品や滞在プログラムの開発や磨き上げが促進し、交流人口が増加するとともに地域活性化が図られた。	
	●来訪者満足度における「大変満足」の割合 ㉕17.7% → ㉖20.0%				20.0%				20.8%	◎		
3	地域の住民や企業等が地域資源の魅力を再発見して、商品化・発信・販売するプログラムイベントを開催し、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを推進します。	推進	→	→	→						1 「住んでよし、訪れてよしの観光地域づくり」をコンセプトにした、にし阿波体感プログラムイベントを「あわこい」として開催するとともに、通年楽しめるプログラムとしても催行した。 ・あわこい企画プログラム数 H27:64 H28:89 H29:85 H30:102	
	●にし阿波体感プログラムイベントの参加者数 ㉕801人→㉖～㉗年間1,000人以上 ㉘年間1,400人以上	1,000人	1,000人	1,000人	1,400人	1,024人	1,302人	1,318人	1,416人	◎	上記の取組み等により、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりが図られた。	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
4	日本の原風景ともいえる高地傾斜地集落での農山村暮らし体験や古民家ステイ、吉野川のラフティング、地域の食材を利用した料理、伝統工芸などによる体験型観光を推進します。また、併せて外国人の受入を進めます。	推進	→	→	→						<p>体験型教育旅行を始めとした体験型観光の拡大を図るため次の取組を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> にし阿波訪日教育旅行推進協議会の設置（H29.11） 訪日教育旅行の受入 （H29 3か国 4校 115名、H30 1か国 1校 30名） 新規受入家庭掘り起こしのための民泊研修、先進地視察研修の実施 〔H27 研修2回 視察1回、H28 研修2回 視察1回 H29 研修2回、H30 研修2回〕 旅行会社の教育旅行部門等への営業（山陽、京阪神、首都圏）の実施 （H27 6回、H28 4回、H29 4回、H30 7回） 企業研修・団体視察・大学スタディツアー受入の推進 （H27 10団体、H28 15団体、H29 20団体、H30 16団体） <p>上記の取組み等により、体験型観光の推進、外国人の受入が図られた。</p>	
	●にし阿波訪日教育旅行推進協議会の設置 ㉙設置・㉚推進			設置	推進			設置	推進	◎		
	●体験型観光の延べ受入泊数（そのの郷受入） ㉛3,817泊→㉜5,000泊	4,100泊	4,400泊	4,700泊	5,000泊	4,278泊	5,517泊	5,024泊	5,244泊	◎		
	うち外国人の延べ受入泊数 ㉝1→㉞250泊	50泊	100泊	200泊	250泊	177泊	237泊	399泊	506泊	◎		
5	にし阿波ならではの農業体験や豊かな食文化を活用した「食と農の景勝地」等の取組みを支援するため、農・観・食の民間事業者連携のもと、農業者の収益の拡大と圏域観光の振興を図ります。	促進	→	→	→						<ol style="list-style-type: none"> 他地域との競争力を高めるため、ジビエ料理やこんにやくづくりなど「スキルアップ研修」の実施や、農林漁家民宿開業に必要な保健所や消防への申請に関して、アドバイスを行った。 平成29年度から「食と農の名人」制度を立ち上げ、後継者育成やPR活動に理解のある人の認定を行い知識や技能の次世代への継承を推進した。 農・観・食にかかわる事業者等の連携の場として、平成29年度に「にし阿波・桃源郷ビジネス研究会」を設置したが、平成30年3月に「世界農業遺産」に認定された後は、「徳島剣山世界農業遺産推進協議会」の場で、「情報発信」や「もうかるにし阿波」への取組みなどにし阿波活性化に向けた協議を行った。 <p>上記の取組み等により、農業者の収益の拡大と圏域観光の振興が図られた。</p>	
	●とくしま農林漁家民宿数（累計） ㉟18軒→㊱30軒	23軒	25軒	27軒	30軒	24軒	25軒	30軒	38軒	◎		
	●「食と農の名人」制度登録者数（累計） ㊲1→㊳16人			制度創設 8人	16人			制度創設 8人	16人	◎		
	●民間事業者間連携の「にし阿波・桃源郷ビジネス研究会」による「食と農の景勝地」づくりの推進 ㊴研究会設置・㊵推進			研究会 設置	推進			研究会 設置	推進	◎		
6	観光客の来訪・滞在を推進することにより、宿泊施設をはじめ観光施設、飲食店、土産物店等での観光客の消費拡大を図ります。	推進	→	→	→						<ol style="list-style-type: none"> 高地傾斜地集落めぐりや吉野川八合霧鑑賞などの着地型旅行商品の開発に加え、剣山ロングトレイルや「にし阿波」の伝統、文化を題材としたコンテンツの開発などを行い、滞在交流プログラムを充実させることにより、観光客の消費拡大を図った。 食をはじめとした物産について、「千年のかくれんぼ」ブランド認証制度を創設し、4種を認証するとともに、旅行博や商談会で情報発信に取り組んだ。 ・H30認証商品：ビスコッティ 炒り歩危番茶 極太仕上げ半田手延べめん 桐下駄 <p>上記の取組み等により、観光客の消費拡大が図られた。</p>	
	●宿泊者の圏域内での観光消費額（一人あたり） ㊶30,795円→㊷32,000円	31,000円	31,300円	31,600円	32,000円	31,502円	31,579円	39,483円	33,098円	◎		
	●「千年のかくれんぼ」ブランド認証制度の創設 ㊸創設				創設				創設	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
7	住民自らが参画する地域づくりを推進するため、NPO等、社会貢献活動に取り組む団体を支援します。	推進	→	→	→						1 市町等と連携して移動オフィスを開催し、社会貢献活動の周知及び参加促進を行った。 (H27:4回、H28:3回、H29:2回、H30:1回) 2 とくしま県民活動プラザと連携して、サテライト講座を開催した。 (H27:1回、H28:2回、H29:2回、H30:1回) 3 西部圏域のNPO法人が地域の課題に取り組む状況を紹介するパネル展を開催した。 (H27:3回、H28:2回、H29:4回、H30:3回) 4 特定非営利活動促進法改正に関する説明会を開催した。 (H28:1回)	
	●NPO法人数 ㉕29団体→㉗40団体	34団体	36団体	38団体	40団体	34団体	36団体	39団体	40団体	◎	上記の取組み等により、住民自らが参画する地域づくりを推進した。	
8	徳島県立総合大学校西部校として、地域の自然や文化、人づくり、地域づくり等をテーマとした講座や外国語講座を開催するとともに、単位修得等に基づく奨励制度の活用により、受講者が講師等となって地域社会に貢献できるよう支援します。	推進	→	→	→						1 県立総合大学校西部校として、各種講座を開催した。 【地域づくり実践講座】 西部圏域の魅力を体感できる「剣山登山」や「親子でのカヤック体験」のほか「歴史講座」、「農家民宿スキルアップセミナー」などを開催した。 (H27:8回・参加者延べ267人、H28:8回・参加者延べ224人) (H29:9回・参加者延べ154人、H30:12回・参加者延べ234人) 【英語講座】 外国人観光客の接客に役立つ基本的な日常英会話を学ぶ講座を開催した。 (H27:6回・参加者延べ110人、H28:8回・参加者延べ164人) (H29:5回・参加者延べ58人、H30:5回・参加者延べ85人)	
	●地域づくり実践講座及び外国語講座の開催 ㉕13回→㉗～㉗年間13回以上	13回	13回	13回	13回	14回	16回	14回	17回	◎	上記の取組み等により、学んだことを地域に還元できるような人づくりを推進した。	
	●奨励証交付者 ㉕63人→㉗～㉗年間70人以上	70人	70人	70人	70人	78人	100人	65人	81人	○		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
9	大学等の高等教育機関と連携し、地域の課題解決や活性化に向けた市町、地域住民、NPO等の取組みを支援します。	推進	→	→	→						<p>1 県立総合大学校（西部校）関係等</p> <p>①徳島大学との連携 「徳島剣山世界農業遺産推進協議会」として「にし阿波の傾斜地農耕システム」の世界農業遺産認定に向けて取組み、認定を受けた。</p> <p>②明治大学との連携 中山間地域の現状や課題を探り、今後の取組みを検討した。</p> <p>③京都大学との連携 フィールドワークを行い、「にし阿波の傾斜地農耕システム」の次世代への継承について検討した。</p> <p>2 にし阿波・地域連携ビジネス創出支援事業関係</p> <p>①首都圏大学生（早稲田・中央など）との連携（美馬市） 若者を対象とする民泊メニューの商品化に取り組んだ。</p> <p>②立教大学との連携（三好市） 大学生や研究者を対象とする学術研究ツアーの商品化を検討した。</p> <p>③徳島大学との連携（つるぎ町） 狩猟やジビエ料理などを活用した環境ツーリズムの商品化を検討した。</p> <p>④関西学院大学との連携（東みよし町） 女子・女性を対象にした特産品の商品化に取り組んだ。</p> <p>上記の取組み等により、高等教育機関等との連携を深め、地域の課題解決や活性化を推進した。</p>	
10	地域での暮らしやしごと、住まい、地域との交流に関すること等、地域に密着した移住情報や魅力を発信するなどして、移住を促進します。	促進	→	→	→						<p>1 管内市町と連携し、おいでや！いなか暮らしフェア（大阪）や、JOIN移住・交流&地域おこしフェア（東京）など、毎年首都圏、関西圏で開催される「移住」PRイベントへのブース出展等を通じて、にし阿波の情報発信に努めた。</p> <p>2 トリプル認定を受けたにし阿波の食農観の魅力を体感していただくため、間伐体験や地元事業者との交流を盛り込んだ「体験ツアー」を、県民局主催で実施した。 （平成31年3月16日～17日、8名参加）</p> <p>3 体験ツアーを通じた地域全体の魅力を広く訴求するため、インフルエンサーによるツアー体験談のSNS配信や、ツアー記録動画を制作した。</p> <p>上記取組みにより、移住の促進を図った。</p>	
	●移住者数 ㉕→㉙200人	20人	120人	160人	200人	145人	175人	234人	234人	◎		
11	「にし阿波協働センター」により、県、市町、民間団体等の連携・協働による地域づくりを推進します。	推進	→	→	→						<p>1 移住者と地域間の連携を深め課題を洗い出す取組みとして、「にし阿波の暮らしを考える会」を開催し、現場の意見を収集することが出来た。</p> <p>2 地域での仕事づくりとして、短時間勤務や事業承継の状況把握のため、アンケート調査を実施し現状把握を行った。</p> <p>3 過疎地域における消費活動に及ぼす地域交通の現状調査を行った。</p> <p>4 中山間地域における買物支援についての調査研究を行った。</p> <p>上記の取組み等により、地域課題の研究・解決や、行政と民間団体等との協働による地域づくりを推進することができた。</p>	
	●地域課題の研究数（累計） ㉕→㉙8件	2件	4件	6件	8件	2件	4件	6件	8件	◎		

重点項目 1 魅力ある観光・交流の拡大

中項目 2 外国人の誘客活動の推進	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆☆☆	◎10・〇0・△0 (2×10+1×0+0×0)/10 = 2.0 → ☆☆☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
12	「桃源郷のような別世界」と称される高地傾斜地集落の景観や暮らしなど「にし阿波」の強みを活かし、アジアはもとより、米豪欧（アメリカ、オーストラリア、フランス、ドイツ）でも、官民連携によるプロモーションを展開するとともに、外国人観光客受入の核となるDMOの機能強化や広域観光周遊ルートの推進等に取り組み、外国人観光客の増加を促進します。	促進	→	→	→						<p>【平成27、28年度】</p> <p><アジア></p> <ul style="list-style-type: none"> ・香港営業、香港秋祭り及び旅行会社等営業、雑誌記事広告掲載等シンガポール営業、現地PRイベント、マレーシア旅行博出展及び営業 <p><欧米豪></p> <ul style="list-style-type: none"> ・パリ旅行博（フランス）、アヌーガ世界食品見本市、ハノーバー見本市（ドイツ）でのPR、ミラノ万博（イタリア）出展 ・在ロサンゼルス総領事公邸でのトップセールス、米国西海岸営業及び商談会、旅行博出展、ニューヨーク営業 ・豪州営業 <p>【平成29年度】</p> <p><アジア></p> <ul style="list-style-type: none"> ・香港営業、台湾メディアプロモーション、シンガポール旅行博出展、マレーシア、シンガポール営業 <p><欧米豪></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランス旅行博での観光PR及び営業、米国西海岸旅行博出展、商談会参加及び営業、豪州営業 	
	●アメリカ、オーストラリア、フランス、ドイツでのプロモーションの展開 ⑰～⑳展開					展開	展開	展開	展開	◎	<p>【平成30年度】</p> <p><アジア></p> <ul style="list-style-type: none"> ・香港営業、香港秋祭り及び旅行会社等営業、香港雑誌記事広告掲載等台湾営業、四国セミナー、アウトドアイベント出展、シンガポール営業、現地旅行博出展、マレーシア営業、旅行博出展 <p><欧米豪></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャパン・ハウス ロサンゼルス（米国）でセミナー開催、訪問営業 ・豪州営業、商談会出展 <p>上記の取組み等により、外国人観光客の増加が図られた。</p>	
	●圏域内外国人延べ宿泊客数（暦年）【主要指標】 ㉕4,880人→㉖24,000人	7,700人	11,000人	21,000人	24,000人	15,025人	23,681人	28,824人	27,921人	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
13	外国人向け観光情報サイトやSNSでの多言語情報発信、「にし阿波ファン」の外国人を発掘して母国語で情報発信してもらう等ICTを活用した海外への情報発信を推進するとともに、にし阿波への来訪者がSNSで発信した投稿情報から、興味、ニーズなどを分析し、今後のインバウンド対策に活用します。	推進	→	→	→						<p>ホームページやSNSなどICTを活用した海外への情報発信の強化を図った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 英語ブログでの情報発信(H27) 多言語(英語、フランス語、繁体字)によるフェイスブックページでの情報発信(H27～) 英語版ホームページのリニューアル(H27) フランス語版、繁体字版のホームページを製作(H28) 台湾のwebメディアを活用した情報発信(H29) にし阿波在住の外国人が制作した動画を動画投稿サイトで海外に情報発信(H29) 米大手旅行雑誌で祖谷溪が「2018年に訪れるべき50の旅行地」として日本で唯一掲載された。(H29) 外国人来訪者がSNSで発信した情報を調査分析し、興味やニーズを把握しインバウンド対策に活用した。(H30) 日本語版ホームページをリニューアルするとともに、英語版ホームページに二次交通情報のページを新たに製作した。(H30) 	
	●SNSでの多言語情報発信 ⑲開始	開始				開始	—	—	—	◎	<p>上記の取組み等により、外国人向け観光情報サイトやSNSによる海外に向けた情報発信に取り組むとともに、ホームページの多言語化により情報発信力が図られた。</p>	
	●SNS投稿情報の分析による来訪者ニーズの把握 ⑳推進								推進	◎		
14	東京から京阪神にかけてのゴールデンルートから圏域に外国人観光客を誘導するため、他の観光圏や近隣府県等と連携し、広域観光周遊ルートの形成や観光展・商談会への出展等観光プロモーションに取り組みます。	推進	→	→	→						<p>他の観光圏や自治体と連携した観光プロモーションを実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ツーリズムEXPOジャパンでの観光プロモーション(東京)(H27～H30) ※H29から全国13の観光圏が連携した共通プロモーション(ブース出展、シンポジウム開催、観光圏総選挙等)を行い、積極的に展開した。 「オール徳島観光商談会」での情報発信(東京都)(H30) 三好市や県観光協会と連携しマレーシアの旅行博に出展 香川せとうちアート観光圏との共同プロモーションの実施 H28 セミナー及びファミツアーの開催 H29 JR四国観光列車や徳島県知事トップセールスを盛り込んだファミツアーの開催 H30 オーストラリア商談会出展、現地営業、ファミツアーの実施 	
	●広域連携による観光プロモーション実施回数 ㉕→㉗～㉙年間3回以上	3回	3回	3回	3回	4回	3回	3回	4回	◎	<p>上記の取組み等により、圏域の外国人観光客誘導が図られた。</p>	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
15	「にし阿波お勧めビューポイント」等を効果的に活用し、にし阿波の美しい自然、伝統・文化に育まれた風景・景観の魅力を、県内外に向けて発信します。	推進	→	→	→						<p>1 県内及びにし阿波を訪れた人に対して、情報発信を行った。 （H27:4回、H28:5回、H29:5回、H30:3回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貞光ゆうゆう館、鳴門ポリカリスエットスタジアム等においてビューポイント写真展を開催した。 ・にし阿波・秋の物産展、ツール・ド・にし阿波等においてビューポイントパネルを使ったPR活動を実施した。 <p>上記の取組み等により、にし阿波の美しい魅力を広くPRすることで、来訪・滞在の促進が図られた。</p>	
16	「山の日」制定等を契機に、地域の宝「剣山」の魅力を県内外にPRするため、発信力の高いメディアと連携しながら、地域事業者等が実施するイベントの効果的な情報発信を図ります。	推進	→	→	→						<p>1 山の日関連のイベントにおいて、剣山の魅力や剣山ぐるっとバスなどの情報を発信し来訪者の増加に推進した。</p> <p>2 剣山の魅力ある自然を情報発信するため、4K動画を制作し剣山をPRした。</p> <p>3 H29年度に造成した剣山ロングトレイルなどの滞在交流型プログラムの情報発信を行うため、PR動画を台湾でのアウトドアイベントに出展した。</p> <p>4 登山初心者などを対象とした多言語対応のスマホ用アプリ「剣山登山道ナビシステム」を開発し、安心・安全・快適な剣山登山につなげた。</p> <p>上記の取組み等により、「剣山」登山の情報発信が図られた。</p>	
17	県内で開催されるイベント情報等を効果的に発信するため、道路情報板にイベント情報等を表示します。	推進	→	→	→						<p>1 道路情報板にイベント情報等を表示した。 【主な表示（H30）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月GW かずら橋まで約10km 落石の恐れ 走行注意 ・8月 ウェイクボード世界大会 in池田湖 開催中 ・9月 動物愛護週間 9月20日～26日 <p>【（H27・H28・H29・H30）共通する主な表示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車イベント「ツール・ド・にし阿波」 <p>上記の取組み等により、イベント情報を効果的に発信することができ、スムーズな大会の運営等にも繋がった。</p>	
	●道路情報板へのイベント情報等の表示回数 ⑦～⑩年間20回以上	20回	20回	20回	20回	20回	20回	20回	20回	◎		
18	市町や民間団体と連携し、地域資源を活用したアウトドアスポーツやイベントの情報発信を図り、スポーツ・レクリエーション施設を活用したイベントの開催やスポーツ合宿の誘致を促進します。	促進	→	→	→						<p>1 H28.10「ラフティング世界選手権大会」プレ大会、H29.10「 " "」本大会が開催された。</p> <p>2 H28.9「第1回ウェイクボードアジアチャンピオンシップ」、H30.8「ウェイクボード世界選手権」が開催された。</p> <p>3 吉野川を活用したウォータースポーツをはじめ、カヌー・カヤックや、剣山登山、ボタリング（折りたたみ自転車を使った散策）等の情報発信に努めた。</p> <p>上記の取組み等により、地域資源を活用したアウトドアイベントの開催やスポーツ合宿の誘致が図られた。</p>	
	●イベントの開催、スポーツ合宿の誘致件数 ⑤122件→⑦～⑩年間125件以上	125件	125件	125件	125件	131件	129件	126件	137件	◎		
	●ラフティング世界選手権大会の開催 ⑨開催			開催		-	-	開催	-	◎		
	●ウェイクボード世界選手権大会の開催 ⑩開催				開催	-	-	-	開催	◎		
	●ウェイクボード世界選手権大会等の開催を契機とした吉野川での「ウォータースポーツ」発信 ⑩推進				推進	-	-	-	推進	◎		

重点項目 1 魅力ある観光・交流の拡大

中項目 3 受入環境の整備	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆☆☆	◎10・〇0・△0 (2×10+1×0+0×0)/10 = 2.0 → ☆☆☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
19	日本版DMO「その郷」を中心とした、「にし阿波」の地域資源のコーディネートや体験プログラムの案内ができるインバウンド対応ガイドなどの人材育成を支援します。	促進	→	→	→						1 「一般社団法人その郷」において、観光地域づくりの中核的人材の育成や誘客に向けた販路拡大のため、旅行業務取扱管理者資格を3名が取得し、機能の強化を図った。(H27) 2 その郷が受入を行っている、アメリカの「National Geographic Expedition」ツアーやフランスの「ASIA JAPAN INTIMISTE」ツアーにおいて、にし阿波の観光案内を行うガイド人材の養成を行った。(H28) 3 新たに造成した剣山やその周辺の集落を中心とした滞在型プログラムについて、地域人材を活用したガイド養成を行った。(H29、H30) 上記の取組み等により、広域案内人の人材育成が図られた。	
	●にし阿波を広域的に観光案内できる者の育成数（累計） ㉕→㉗12人	2人	4人	9人	12人	3人	6人	9人	12人	◎		
20	観光案内所、道の駅等において、周辺の観光地だけでなく圏域全体の観光案内等を行うことができる、観光コンシェルジュ機能の整備を推進します。	推進	→	→	→						1 観光客が多く立ち寄る案内所や宿泊施設、道の駅等の16施設に、「にし阿波トラベルステーション」を設置し、観光コンシェルジュ機能の整備を図った。(H27～) ・災害交通情報の発信 大雨や台風等を原因とした交通規制情報等の発信に努めた。 ・英語版「にし阿波WiFiマップ」の配布 ・公衆無線LAN接続方法マニュアルの配置 ・英語併記の着地型旅行商品ガイドでタクシープラン等を紹介 ・災害発生時等の用の多言語リーフレットを作成し配布(H28) ・観光案内所間の情報共有のネットワークづくり(H29) ・二次交通情報のパンフレットを作成し配布(H30) 上記の取組み等により、観光コンシェルジュ機能の整備が図られた。	
21	外国人観光客に対して、着地型旅行商品などを含めて広域的な地域情報をワンストップで提供し、SNS等での情報発信・受信をきめ細かくサポートする拠点を設置します。	促進	→	→	→						<H27～H30取組内容と進捗状況> 1 「にし阿波トラベルステーション」の設置 圏域全体の情報を集約し来訪者への案内機能向上を図るため観光案内所、道の駅、ホテル等の観光客が多く立ち寄る主要16施設にトラベルステーションを設置した。 2 フェイスブックによる情報発信 随時更新可能な「ゴーゴー剣山&にし阿波」ページを利用したた旬な観光情報の提供態勢を整えた。(H27～) 3 無料公衆無線LAN設置の支援 主要な観光関係施設70カ所のうち、67施設に、無料公衆無線LANが設置された。	
	●「にし阿波トラベルステーション」の設置 ㉗設置	設置				設置	-	-	-	◎		
	●主要な観光関係施設(*)の無料公衆無線LANカバー率【主要指標】 ㉕→㉗95% *観光地、観光案内所(道の駅)、宿泊施設、公共施設(避難所)	82%	86%	90%	95%	82%	86.1%	91.2%	95.7%	◎	上記の取組み等により、広域的な地域情報提供が図られた。	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
22	異常気象時や災害発生時における観光客への適切な対応や復興に係る計画「にし阿波観光危機管理マニュアル」の策定に取り組み、災害に強い観光地域づくりを推進します。	推進	→	→	→						<p>【平成27年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「観光危機管理基本方針」を策定するとともに「観光危機管理セミナー」を開催し、関係者の機運の醸成を図った。 <p>【平成28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「にし阿波観光危機管理マニュアル」を策定。 災害発生時等の外国人来訪者とのコミュニケーションを円滑にするため、想定される質問事項を記載した多言語リーフレット（日、英、繁、簡、韓、仏）を作成し配布 <p>【平成29年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年外国人観光客が急増しているため、外国人観光客向け「災害時対応マニュアル」を策定 <p>【平成30年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時における外国人旅行者等への情報発信や対応方法等について、国・県・市・観光関連事業者が話し合う場を設け、今後も継続して必要な協議を行うこととした。 <p>上記の取組み等により、災害に強い観光地域づくりの推進が図られた。</p>	
	●「にし阿波観光危機管理マニュアル」の策定 ⑳策定 ㉑～㉓推進		策定	推進	推進	基本方針 策定	策定	推進	推進	◎		
	●観光情報サイトや観光案内所、宿泊施設等での危機管理情報の発信 ㉑開始 ㉒～㉓推進	開始	推進	推進	推進	開始	推進	推進	推進	◎		
23	観光地への分かりやすい案内標識の設置・多言語表記への変更、観光事業者・観光地周辺住民のおもてなし意識の向上を図るなど、国内外からの観光客の受け入れ態勢の整備を市町等と連携し推進します。	推進	→	→	→						<p>多言語に対応するツール作成や外国人観光客へのおもてなし意識の向上を図った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 繁体字のカーナビ対応観光マップの作成（H27） 英語の案内ウェブサイトリニューアル（H27） フランス語と繁体字の案内ウェブサイト作成（H28） フランス語観光マップ作成（H28） 英、仏、繁、簡各言語の歓迎横断幕作成（H28） 外国人観光客向けコミュニケーションシート作成（H28） 外国人観光客対応マニュアル作成（H29） 英、繁各言語の旅のガイドブック作成（H29） 英語版二次交通情報のホームページ、パンフレットの作成（H30） <p>上記の取組み等により、市町等と連携し、国内外からの観光客の受け入れ態勢整備が図られた。</p>	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
24	高速交通ネットワークの機能強化及び広域交流拡大並びに利用者の安全・安心を確保するため、徳島自動車道「4車線化」の早期実現に向け、利用促進を図ります。	促進	→	→	→						<p>1 PR活動や要望回数</p> <p>(H27) 6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネル展示3回 ・PR活動のためのイベント「走って得する！徳島自動車道利用トク事業」を1回開催。 ・4車線化に向けたPRパネル展示2回（吉野川SA・上板SA） ・国への提言3回 ・早期4車線化・通行規制が長時間に及ぶ区間について効果的な対策を講じるよう提言。 <p>(H28) 5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PR活動2回 ・イベント「環瀬戸内海地域の食に関するキャンペーン等高速道路・ストック効果に関するPR。（吉野川SA・上板SA） ・国への提言3回 ・早期4車線化、付加車線早期完成または通行規制が長時間に及ぶ区間について効果的な対策を講じるよう提言。 <p>(H29) 5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PR活動1回 ・高速道路・ストック効果に関するPR（まっちゃんぐフェスタin上板SA） ・国への提言4回 ・早期4車線化、付加車線早期完成または通行規制が長時間に及ぶ区間について効果的な対策を講じるよう提言。 <p>(H30) 2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期4車線化、付加車線早期完成または通行規制が長時間に及ぶ区間について効果的な対策を講じるよう、国へ2回提言。 <p>上記の取組み等により「徳島自動車道4車線化」の工事を促進中。事業中の付加車線設置区間と合わせると、脇町ICを挟み連続して延長約15kmの4車線化が図られることとなっている。さらには、高速道路の暫定2車線区間のうち、優先的に4車線化を実施する区間として、当工事区間を含む、藍住IC～川之江東JCT間（5.5km）が、国の選定を受けている。</p>	
	●徳島自動車道の「4車線化」を求めるPR活動や要望回数 ⑦～⑩年間2回以上	2回	2回	2回	2回	6回	5回	5回	2回	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
25	広域交流の基盤を支える主要幹線道路である一般国道32号の整備を促進します。	促進	→	→	→						1 一般国道32号猪ノ鼻道路の工事を促進。 (H27・H28・H29・H30) 徳島県側より ・ 箸蔵第3橋 完成(H24.3) ・ 箸蔵第2トンネル 完成(H26.8) ・ 箸蔵第2橋 完成(H29.3) ・ 箸蔵第1トンネル 施工中(H30.2着工) ・ 箸蔵第1橋 施工中(H30.2着工) ・ 西山トンネル 完成(H29) ・ 込野第1橋、第2橋 完成 ・ 新猪ノ鼻トンネル 全延長L=1,377.4m 全ての掘削工事を完了。(R1.8.11貫通式開催) 現在覆工コンクリート、舗装工等を順次施工中。	
	●一般国道32号猪ノ鼻道路（延長8.4km）の整備 ㉔工事施工中→㉕工事促進中（㉖供用）	促進	→	→	→	促進	促進	促進	促進	◎	上記のとおり、令和2年度の完成に向けて工事の促進を図った。	
26	観光地の魅力を促進させるため、主要幹線道路の整備を促進しアクセスの向上を図るとともに、観光客が安心して来訪できるよう、道路標識の整備など観光地の魅力を向上させる施策を推進します。	推進	→	→	→						1 アクセスルートの整備箇所 (H27)1箇所完成（累計：12箇所） 橋梁補修工事（三好市） ・ 主要地方道山城東祖谷山線 祖谷口橋 (H28)3箇所完成（累計：15箇所） 現道拡幅工事（美馬市） ・ 一般国道492号 口山工区 災害防除（美馬市） ・ 一般国道438号 大北工区 橋梁補修（三好市） ・ 一般県道野呂内三縄停車場線 三好橋 (H29)2箇所完成（累計：17箇所） 現道拡幅工事（三好市） ・ 主要地方道山城東祖谷山線 善徳工区 ・ 一般県道野呂内三縄停車場線 上野呂内工区 (H30)2箇所完成（累計：19箇所） ・ 橋梁補修工事 1箇所完成 主要地方道西祖谷山山城線 大歩危橋（JR跨線部）（三好市） ・ 現道拡幅工事 1箇所完成 一般国道439号 東祖谷 樫尾工区（三好市） 2 日本語と英語を併記した道路標識設置 ・ (H27)設置数：2基（累計：2基） ・ (H28)設置数：20基（累計：22基） ・ (H29)設置数：8基（累計：30基） ・ (H30)設置数：23基（累計：53基）	
	●にし阿波～剣山・吉野川観光圏のアクセスルートの整備箇所数（累計） ㉔5箇所→㉕19箇所	12箇所	15箇所	17箇所	19箇所	12箇所	15箇所	17箇所	19箇所	◎	上記、工事完成及び既存の道路案内標識の改良により、観光客の交通利便性を向上するとともに、にし阿波の魅力向上に努めた。	
	●外国人にも分かりやすい道路標識の設置基数（累計） ㉔→㉕35基	2基	5基	30基	35基	2基	22基	30基	53基	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
27	空き家や廃校などの地域ストックの有効活用を図り、移住希望者等に対する相談対応や移住フェアへの参加を通じて、移住交流の促進を図ります。	促進	→	→	→						<p>1 管内市町と連携し、おいでや！いなか暮らしフェア(大阪)や、JOIN移住・交流&地域おこしフェア(東京)など、毎年首都圏、関西圏で開催される「移住」PRイベントへのブース出展等を通じて、にし阿波の情報発信、相談対応に努めた。</p> <p>2 移住に関する県全体の相談窓口である「とくしま移住交流促進センター(東京都)」「住んでみんで徳島!移住相談センター(徳島市)」をはじめ、国が開設した「ふるさと帰郷センター(東京都)」に対して、積極的に地域のイベントや「空き家、廃校」の活用事例など移住関連情報を提供し、訴求力のある関係機関のホームページやSNS等を活用したタイムリーな情報発信を推進した。</p>	
	●移住相談件数 ㊦95件→㊰200件	100件	140件	170件	200件	146件	183件	193件	330件	◎	上記の取組み等により、移住交流の促進を図った。	

重点項目2 豊かな地域環境の創造

中項目1 自然と共生する地域づくり	数値目標 達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆☆☆	◎9・○2・△0 (2×9+1×2+0×0)/11 = 1.8 → ☆☆☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
28	剣山山頂「あわエコトイレ」の完成や「山の日」の制定を契機として、自然保護や登山マナーの向上に向けた啓発活動を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 剣山国定公園の豊かな自然を次世代に継承するため、「あわエコトイレの完成」「山の日の施行」を契機に、地域が一体となった「登山マナーアップキャンペーン」の実施など、自然保護や登山マナー向上に向けた啓発活動を行った。</p> <p>H27:あわエコトイレオープニング等 ジュニア・ネイチャーリーダー養成講座 剣山フォーラム</p> <p>H28:登山マナーアップ掲示板(英語併記)設置 はじめての山登り講座 剣山・三嶺 広域登山道マップ配布 地域づくり実践講座</p> <p>H29:はじめての山登り講座 剣山・三嶺 広域登山道マップ配布 地域づくり実践講座 2回</p> <p>H30:はじめての山登り講座等講座 剣山・三嶺 広域登山道マップ配布 カップラーメンミーティングin中尾山 高校生を対象とした自然保護体験講座の開催</p> <p>上記の取組み等により、自然保護や登山マナー向上に向けた意識の高揚を図った。</p>	
	●剣山山頂「あわエコトイレ」完成記念「登山マナーアップ・キャンペーン」の実施 ⑲～実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	◎			
	●「山の日」施行記念「登山マナーアップ・キャンペーン」の実施 ⑳～実施		実施	実施	実施	—	実施	実施	実施	◎		
	●自然保護や登山マナー向上に向けた啓発活動実施回数【主要指標】 ⑳～㉑年間2回以上 ㉒年間4回以上	2回	2回	2回	4回	3回	4回	4回	4回	◎		
	●高校生を対象とした自然保護体験講座の開催 ㉓開催				開催	-	-	-	開催	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
29	剣山国定公園を「地域の宝」として次世代に継承していくため、子どもや女性、若者を対象とした参加体験型の環境教育や自然保護等の活動を通じて、自然環境を保全する新たな担い手を育成するとともに、剣山の魅力を県内外にPRし、更なる「剣山ファン」の拡大を図ります。	推進	→	→	→						<p>1 自分に合ったスタイルで剣山国定公園の自然保護や魅力発信等に参加できる「剣山サポータークラブ」の中に「女性サポーター」「若者サポーター」「ジュニアネイチャーリーダー」を創設し、各目線での活動を展開した。</p> <p>H27:山のトレマナーシンポジウム 剣山系ニホンジカ生息調査 三嶺登山道補修活動など、6回実施</p> <p>H28:山の日イベント 三嶺山域シカ食害の被害調査体験 山岳自然保護集会など、8回実施</p> <p>H29:山の日イベント 大好き剣山サミット田中陽希講演会 登山力向上と遭難防止のための講習会など、7回実施</p> <p>H30:剣山クリーンハイク&樹木ガード巻きふるさとのに登ろう（剣山） 山の日イベント 登山道現地調査 シカ防護ネット管理作業など、7回実施</p> <p>※H31.3.31現在 剣山サポータークラブ会員数644人</p> <p>上記の取組み等により、剣山国定公園の自然環境保護を担う人材育成や魅力発信などを行い、「剣山ファン」の拡大を図った。</p>	
	●「ジュニアネイチャーリーダー」、 「女性サポーター」「若者サポーター」の創設 ⑦創設	創設				創設	—	—	—	◎		
	●「剣山サポータークラブ」の活動実施回数 ⑦～⑩年間5回以上	5回	5回	5回	5回	6回	8回	7回	7回	◎		
30	剣山国定公園内の登山道について、自然景観に配慮しながら、地域と連携した安全確保対策を推進します。		実施	推進	→						<p>1 関係者や地域からの要望を踏まえ、近自然工法による計画的な登山道の整備・補修・点検に取り組むとともに、「剣山登山道ナビシステム」や多言語標記による遭難防止標識の設置等により、登山者の安全対策を推進した。</p> <p>・多言語（日英中（簡・繁）韓）標記による遭難防止標識の設置数 H29:7基 H30:18基</p> <p>上記の取組み等により、登山者の安全確保に寄与した。</p>	
	●登山道の整備・補修・点検の実施 ⑧刀掛の松～ノ森方面 ⑨行場～頂上及び木屋平～ノ森方面 ⑩お花畑～追分の一部		実施	実施	実施		実施	実施	実施	◎		
	●GPSを活用した登山道アプリの開発・共用 ⑨開発 ⑩供用			開発	供用			開発	供用	◎		
	●外国人にも分かりやすい標識設置等による安全対策の推進 ⑨～⑩推進			推進	推進			推進	推進	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事 項
		H27	H28	H29	H30							
31	野生鳥獣と人との共生を図るため、ニホンジカの適正管理を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 狩猟免許の新規受験者の増加を図るため、地区猟友会などの協力を得て、新規狩猟者の確保に向けた啓発を行った。</p> <p>2 ニホンジカ個体数密度推定のためのモニタリング調査及び罠いワナ等による効率的な捕獲方法の検証を実施した。</p> <p>3 剣山地域ニホンジカ対策協議会をワークショップ形式で開催し、課題抽出と対策について検討を行った。 (H27:2回、H28:1回、H29:1回、H30:3回)</p> <p>4 剣山サポータークラブと協働した防護ネット管理等を行うとともに、ニホンジカ食害対策のため、団体等と連携した被害状況調査及び土砂流出防止対策を実施した。</p>	
	●新規狩猟者の確保数 ⑳～㉑年間30人以上 ㉒～㉓年間40人以上	30人	30人	40人	40人	84人	74人	51人	25人	○	<p>上記の取組み等により、新規狩猟者の確保やニホンジカの捕獲推進を図り、自然と共生する環境づくりに寄与した。</p>	
	●ニホンジカ捕獲頭数（吉野川南西ユニット） ⑳～㉑年間1,600頭以上 ㉒～㉓年間4,968頭以上	1,600頭	1,600頭	4,968頭	4,968頭	4,507頭	4,746頭	5,209頭	4,929頭	○		
32	「徳島県公共事業環境配慮指針」等に基づき自然環境に配慮した公共事業を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 「徳島県公共事業環境配慮指針」の趣旨を踏まえ、公共事業における環境配慮のため、「環境配慮チェックリスト」を作成し、環境配慮指針に基づく、公共工事の施工に努めた。 (H27～H30)</p> <p>上記取組み等により、公共工事施工による自然環境への配慮を推進した。</p>	

重点項目 2 豊かな地域環境の創造

中項目 2 環境に配慮した行動の推進	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆☆☆	◎9・〇0・△0 (2×9+1×0+0×0)/9 = 2.0 → ☆☆☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
33	「環境首都とくしま・未来創造憲章」の普及を図るため、講座等の機会を捉えて啓発するとともに、マイバック持参や環境負荷の低減など環境にやさしいライフスタイルへの転換を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 「夏休みエコサイエンス教室」や「にし阿波環境塾（リサイクル）」の開催などを通じて、豊かな環境の次世代継承に向けて、日常生活の中でできる環境に配慮した行動について啓発を行った。</p> <p>(H27) 夏休みエコサイエンス教室 にし阿波環境塾（出前講座）小学校3回 ジュニア・ネイチャーリーダー養成講座 マナーアップキャンペーン 等</p> <p>(H28) 夏休みエコサイエンス教室 にし阿波環境塾（出前講座）小学校2回</p> <p>(H29) 夏休みエコサイエンス教室 にし阿波環境塾（出前講座）小学校5回 ジュニア・ネイチャーリーダー養成講座</p> <p>(H30) 夏休みエコサイエンス教室 にし阿波環境塾（出前講座）小学校等5回 ジュニア・ネイチャーリーダー養成講座</p>	
	●「環境首都とくしま・未来創造憲章」の啓発【主要指標】 ⑳～㉓推進	推進	→	→	→	推進	推進	推進	推進	◎	上記の取組み等により、「環境首都とくしま・未来創造憲章」の啓発を進めるとともに、環境に配慮した行動に関する意識の醸成を図った。	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
34	共助社会づくりを推進するため、住民団体や企業等との協働による公共施設の新たな維持管理への取組みを進めます。	推進	→	→	→						<p>1 道路や河川等の公共物の清掃等を、地域住民や企業により、一定区間・定期的に行う「アドプトプログラム」の取組みを行った。</p> <p><活動回数> ・【合計】(H27)300回(H28)297回(H29)294回(H30)274回 ・【内訳】ロードアドプト (H27)229回(H28)226回(H29)227回(H30)205回 リバーアドプト (H27)71回(H28)71回(H29)67回(H30)69回</p> <p>2 官民一体で、地域の公共施設の維持管理を進めるべく、県管理河川、道路敷きの草刈りの一部を、地元住民・自治会等に委託する「官民協働型維持管理システム」の取組みを行った。</p> <p><実施団体数> ・【合計】(H27)17団体(H28)21団体(H29)28団体(H30)31団体 ・【内訳】道路 (H27)9団体(H28)12団体(H29)17団体(H30)17団体 河川 (H27)8団体(H28)9団体(H29)11団体(H30)14団体</p> <p>上記取組み等により、公共構造物の適正な維持管理に努めた。</p>	
	●アドプトプログラム活動回数 ⑦～⑳年間200回以上 ㉑年間250回以上	200回	200回	200回	250回	300回	297回	294回	274回	◎		
	●官民協働型維持管理システム実施団体数 ⑦～⑳年間10団体以上 ㉑年間25団体以上	10団体	10団体	10団体	25団体	17団体	21団体	28団体	30団体	◎		
35	省エネルギー対策を推進するため、県管理道路における道路照明灯等のLED化を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 照明灯の老朽化調査結果による修繕計画に基づく「既存照明灯の修繕」によるもの他、エネルギーの省電力化に繋がることから積極的な灯具交換や本体支柱を含めた更新を行い、LED化を推進した。</p> <p><LED化の実績基数> (H27)130基(累計244基) (H28)92基(累計336基) (H29)37基(累計373基) (H30)164基(累計537基)</p> <p>上記の取組み等により、省エネルギー対策等による道路照明灯等のLED化を推進した。</p>	
	●あわ産LED道路照明灯等の設置基数 (累計)【主要指標】 ㉑66基→㉒400基	144基	240基	370基	400基	244基	336基	373基	537基	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
36	剣山や吉野川をはじめとする西部圏域の豊かな自然環境を未来へ継承するため、次世代を担う小中学生に対し、「にし阿波」の自然環境を活用した体験型学習を実施することにより、環境意識の醸成を図り、将来の環境保護に携わる人材を育成します。	推進	→	→	→						<p>1 管内の小中学校において、水質やリサイクル等に関する出前講座「にし阿波環境塾」を開催した。 (H27:4回、H28:7回、H29:5回、H30:5回)</p> <p>2 親子を対象に、実験やゲームを通じて省エネルギー等について学んでもらう「夏休みエコサイエンス教室」、親子で山登りしながら登山マナーを学ぶ「ジュニア・ネイチャーリーダー養成講座」等を特別講座として開催した。 (H27:3回、H28:1回、H29:2回、H30:2回)</p> <p>上記の取組み等により、次世代を担う小中学生に対する体験型学習などを実施し、環境意識の醸成を図った。</p>	
	●「にし阿波環境塾」の開催回数 ㉗～㉙年間7回以上	7回	7回	7回	7回	8回	7回	7回	◎			
37	良好な水環境を保全するため、「市町村設置型浄化槽」の整備を支援するとともに、浄化槽の適正な維持管理について普及啓発などを通じて、浄化槽に関する住民の理解の醸成を図ります。	推進	→	→	→						<p>1 環境月間（6月）及び浄化槽月間（10月）において、浄化槽の適正管理に関する啓発活動を実施した。 (H27:2箇所、H28:1箇所（2回）、H29:2箇所、H30:2箇所)</p> <p>2 新規設置者を対象とした浄化槽教室を開催するとともに、法定検査未受検者に対し、個別指導等を実施した。 H27:浄化槽教室（6回）受講者154人 個別指導75人 H28:浄化槽教室（5回）受講者115人 個別指導147人 H29:浄化槽教室（5回）受講者131人 個別指導等132人 H30:浄化槽教室（5回）受講者130人 個別指導等128人</p> <p>（参考）法定検査受検率 H27 西部管内65.8%（県全体56.8%） H28 西部管内65.6%（県全体57.2%） H29 西部管内65.8%（県全体57.9%） H30 西部管内66.6%（県全体58.4%）</p> <p>上記の取組み等により、法定検査受検率が県全体を上回るなど、浄化槽の適正な維持管理についての理解が進んだ。</p>	
	●市町村設置型浄化槽の整備 ㉕545基→㉙900基	620基	680基	740基	900基	667基	774基	868基	955基	◎		
	●浄化槽教室の開催等による啓発人数 ㉗～㉙年間200人以上 ㉙年間230人以上	200人	200人	200人	230人	229人	262人	263人	258人	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
38	良好な水質や大気環境を保全するため、事業場等からの排水やばい煙について、計画的かつ効率的な監視・指導を実施します。	推進	→	→	→						<p>1 良好な水質環境保全として、特定事業場等に対し、計画的な立入調査・水質検査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立入調査・水質検査の実施 H27:29事業場（延べ29回） H28:31事業場（延べ31回） H29:29事業場（延べ29回） H30:29事業場（延べ29回） ・有害物質使用特定施設への立入調査の実施 H27:6事業場（延べ11回） H28:4事業場（延べ4回） H29:6事業場（延べ6回） H30:6事業場（延べ6回） <p>2 良好な大気環境保全として、ばい煙発生施設等に対し、計画的な立入調査・測定を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立入調査・測定の実施 H27:10事業場（延べ15回） H28:10事業場（延べ10回） H29:10事業場（延べ10回） H30:10事業場（延べ10回） <p>上記の取組み等により、良好な水質や大気環境の保全に寄与した。</p>	
	●特定事業場等への立入指導回数 ㉗～㉙年間30回以上 ㉚年間35回以上	30回	30回	30回	35回	55回	45回	45回	45回	◎		
39	産業廃棄物の適正処理を推進するため、排出事業者、処理業者等の知識や専門技術の向上に向けた研修会を開催し、産業廃棄物の排出抑制や減量化、適正処理などに関する意識の高揚を図ります。	推進	→	→	→						<p>1 研修会等を開催し、産業廃棄物の適正処理に向けた啓発を行い、産業廃棄物の排出事業者及び処理業者の意識高揚を図った。</p> <p>また、建設系廃棄物の適正処理推進のため、廃棄物の排出を伴う事業を所管する行政担当者に対しても廃棄物処理に係る基本的内容の研修を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> H27:不法投棄等撲滅啓発リーダ研修会(16人) 産業廃棄物見える化事業研修会(8人) H28:産業廃棄物見える化事業研修会(15人) フロン排出抑制法研修会(13人) H29:市町担当者会議(7人) 県土整備部職場研修会(17人) H30:市町担当者会議(8人) 西部地域環境保全推進協議会研修会(18人) <p>2 産業廃棄物の不法投棄や野焼き等を防止するため、環境監視員による河川・山間部地域等の監視を実施するとともに、許可業者等への立入調査の実施により、不適正処理の監視・指導に努めた。</p> <p>上記の取組み等により、産業廃棄物の適正処理に関する意識の醸成を図った。</p>	
	●産業廃棄物排出事業者等研修会の受講者数 ㉗～㉙年間20人以上	20人	20人	20人	20人	24人	28人	24人	26人	◎		

重点項目2 豊かな地域環境の創造

中項目3 地域の環境資源の活用推進	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆☆☆	◎5・〇0・△0 (2×5+1×0+0×0)/5 = 2.0 → ☆☆☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事 項
		H27	H28	H29	H30							
40	小水力発電やバイオマス発電など、再生可能な自然エネルギーへの取組みを推進します。	推進	→	→	→						これまで活用されていなかった、多様な地域資源（農業用水、未利用木質資源、家畜排泄物など）を調査するとともに、事業者との連携を進め有効活用を図った。 上記の取組み等により、再生可能な自然エネルギーへの取組みを推進した。	
41	森林資源の有効活用を図るため、木質資源（バイオマス原料）の利用拡大に取り組みます。	推進	→	→	→						前計画期間に導入したバイオマス（薪）を利用する温泉用ボイラーや薪製造施設及びペレット加工施設、原木貯木施設の本格稼働を支援することにより、利用拡大を進めた。 また、MDF（ファイバーボード）向けチップ及び農業ハウス用ペレット等の需要に対応し利用拡大に取り組んだ。 上記の取組み等により、木質資源の利用拡大が図られた。	
	●薪、チップ、ペレットの生産量 ⑳19,000m ³ →㉑47,000m ³	21,750 m ²	24,500 m ²	27,250 m ²	47,000 m ²	29,323m ²	40,814m ²	45,640m ²	51,650m ²	◎		
42	プロイラーなどから排出される家畜排せつ物の堆肥化など、バイオマス資源としての利活用を推進します。	推進	→	→	→						(H27) 家畜排泄物の堆肥化を推進した。 (H28) 家畜排泄物の堆肥化の推進や堆肥の適正利用の指導を行った。また、関係者と課題や運営方法について協議。 (H29) 家畜排泄物のバイオマス発電利用について、関係者と協議し、効率的な方法について協議した。 (H30) バイオマス発電の効率化に向けて、鶏ふんの水分調整対策を関係者と協議した。 上記の取組み等により、家畜排せつ物のバイオマス資源としての利活用が図られた。	
	●家畜排せつ物の再利用率 ㉒100% → ㉓100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
43	鳥獣被害対策などで捕獲したニホンジカやイノシシなどの「にし阿波の自然の産物」を食肉処理加工し、ジビエ料理の食材として普及・定着を推進します。	推進	→	→	→						1 ジビエの食材への利用拡大を図るため、ジビエ料理研修会の開催やイベントなどでPRを実施した。(H27～30) 2 食肉加工については、解体処理研修会を開催し、処理技術の向上を図るとともに、処理頭数の拡大を進めた。(H27) 3 阿波地美栄のPRを行うと共に、阿波地美栄取扱店舗の認定を推進した。(H27～30) 4 安全で高品質な肉を供給するため、処理加工施設に高性能の金属探知機や大型冷蔵庫の導入を支援した。(H28) 5 「祖谷の地美栄」が全国で2番目に「国産ジビエ認証施設」に認証された。(H30)	
	●「阿波地美栄」取扱店舗数（累計）【主要指標】 ㉕4店舗→㉗18店舗	11店舗	12店舗	13店舗	18店舗	15店舗	17店舗	17店舗	18店舗	◎	上記の取組み等により、計画目標を達成した。	
	●処理頭数の拡大（累計） ㉕174頭→㉗1,000頭	330頭	400頭	700頭	1,000頭	453頭	631頭	869頭	1,420頭	◎		
44	循環型社会経済システムの構築に向けて、「建設リサイクル推進計画」に基づき建設廃棄物のリサイクルを推進します。	推進	→	→	→						1 県土整備部が発注する工事において、工事着手前の計画値、工事完了後の実績値を確認し、再生資源の有効活用を積極的な推進に努めるとともに、特定建設資材廃棄物のリサイクル率100%を達成した。 2 民間等が行う建設工事においては、建設リサイクル法に基づく届出を受理するとともに、内容の確認・指導等を行った。	
	●㉗～㉙特定建設資材廃棄物のリサイクル率100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	◎	上記の取組み等により、循環型社会経済システムの構築に向けた建設廃棄物のリサイクルを推進した。	

重点項目3 安全・安心な地域社会の形成

中項目1 広域防災体制の整備	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆☆☆	◎8・○1・△0 (2×8+1×1+0×0)/9 = 1.8 → ☆☆☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
45	県市町が共同で作成した「にし阿波防災行動計画」（平成25年度策定）を踏まえ、圏域内の防災・減災対策を推進します。	推進	→	→	→						1 「にし阿波防災行動計画」を踏まえ、関係機関が連携し、圏域内の防災・減災対策を行い、防災力の向上が図れた。 上記の取組み等を行ったが、豪雨災害等の気象要因及び各種社会的要因により、一部達成が見込めなかった。	
	●にし阿波防災行動計画の進捗状況（達成・順調） ㉕→ ㉗100%	40%	60%	80%	100%	78.1%	86.2%	86.6%	86.9%	○		
46	南海トラフ巨大地震発生時における県内沿岸地域の津波被害により、県災害対策本部を本庁舎に設置できない場合に西部総合県民局・美馬庁舎が代替施設として機能するよう関係機関と連携しバックアップ体制整備を推進します。	推進	→	→	→						1 県災害対策本部を本庁舎に設置できない場合に、西部総合県民局・美馬庁舎が、代替施設として機能するようその担うべき機能の検討を行い必要な施設の整備を推進した。 ・県災害対策本部機能訓練として初動体制の訓練を実施（H27～H30） ・通信機器、物品の整備等（H27） 徳島県総合情報ネットワークシステム防災無線機器更新、災对本部の統括司令室となる大会議室に電話回線を6回線増設、災害用トイレ6式、簡易ベット3台整備（H28） 非常用電源設備の更新 デジタル簡易無線の基地局アンテナ整備（H29） 自家発電施設装置更新（H30） リエゾン用モバイルバッテリー等の整備	
	●県災害対策本部機能訓練の実施 ㉗～㉙年間1回以上	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	◎		
	●西部総合県民局・美馬庁舎における電力供給設備等の整備	推進	→	→	→	推進	推進	推進	推進	◎	上記の取組み等により、代替施設として機能強化が図られた。	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
47	西部地域の防災拠点や津波被害が想定される沿岸地域の後方支援拠点となる「西部健康防災公園」の整備を推進します。また、関係機関と連携して各種の訓練等の実施による利活用を進めるとともに、広域的な防災拠点になるよう体制整備を図ります。	推進	→	→	→						<p>1 西部健康防災公園について、防災啓発のあり方や施設の有効利用についての検討、関係機関との情報共有を行い、利活用を図ってきた。 H30年4月22日に西部防災館本館、12月8日に別館がオープンし、平時は「防災啓発」、災害時は「広域防災拠点」としての体制が整った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康防災フェスタの開催（H28、H29、H30） 徳島県総合防災訓練の実施 H27年、H30年 各1回（主会場） H28年、H29年 各1回（サテライト会場として参加） 西部圏域防災訓練の実施（H28、H29） <p>2 西部健康防災公園の整備内容は次のとおり。</p> <p>(H27)</p> <ul style="list-style-type: none"> 西部防災拠点施設の地質調査・基礎設計の実施 <p>(H28)</p> <ul style="list-style-type: none"> 三好市側の園路、高瀬川川の連絡道 西部防災館（本館）に工事着工 <p>(H29)</p> <ul style="list-style-type: none"> 三好市側の造成・園路・距離標及び電源施設関係等の工事完了。 美馬市側の園路・階段及び電源設備関係等の工事完了。 西部防災館（本館）の完成。 別館（物資集積施設）の工事に着工。 <p>(H30)</p> <ul style="list-style-type: none"> 別館（物資集積施設）完成。 <p>上記の取組み等により、広域応援部隊の活動拠点として、また後方支援拠点として整備を推進した。</p>	
	●徳島県総合防災訓練の実施 ㉗・㉘実施	実施			実施	—	—	実施	◎			
	●西部圏域防災訓練の実施 ㉙～㉚実施		実施	実施		実施	実施	—	◎			
	●西部健康防災公園の整備【主要指標】 ㉗西部健康防災公園の着手 ㉙西部防災館・本館の完成 ㉘別館（物資集積施設）の完成	着手		完成	完成	着手		本館 完成	別館 完成	◎		
48	関係機関等や市町と連携し、「防災・健康」のリバーシブルな役割を担う「西部健康防災公園」全体の利活用を積極的に進めます。また、西部防災館を活用し、西部圏域における住民の防災意識や災害対応能力の向上及び健康増進を図ります。	推進	→	→	→						<p>H30年4月22日に西部防災館本館、12月8日に別館がオープンし、平時は「防災啓発」、災害時は「広域防災拠点」としての体制が整った。住民を対象にした、防災や健康増進に関する講座を開催し、啓発普及を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会及び訓練の参加者数 H27年 1,039人、H28年 2,098人 H29年 2,620人、H30年 7,848人 防災及び健康講座等実施回数 H30年 48回 <p>上記の取組み等により、防災啓発や健康増進の推進が図られた。</p>	
	●西部健康防災公園を活用した防災に関する研修会・訓練の参加人数（累計） ㉗～㉘7,000人以上	250人	1,500人	3,000人	7,000人	1,039人	3,137人	5,757人	13,605人	◎		
	●西部防災館を活用し、県民を広く対象にした防災及び健康増進講座等実施回数 ㉙→㉚年間30回以上				30回	—	—	—	48回	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
49	大規模災害時などに備え、「道の駅」に非常時の電源・水を確保する設備や災害対応トイレなどを整備し、「道の駅」の防災拠点化を目指します。	推進	→	→	→						<p>1 「道の駅」防災拠点化は、（非常用電源・トイレ・飲料水・照明等）など、災害時に必要な機能を整備すること。</p> <p>(H27) 設計のみ ・予備設計 道の駅「にしいや」、道の駅「三野」 ・詳細設計 道の駅「みまの里」※(H26)予備設計済</p> <p>(H28) 1箇所工事完成（道の駅「にしいや」） ・詳細設計及び工事完成 道の駅「にしいや」 ・詳細設計 道の駅「三野」 ・予備設計 道の駅「藍ランドうだつ」</p> <p>(H29) 1箇所工事完成（道の駅「みまの里」） ・新設工事完成 道の駅「みまの里」 ・詳細設計 道の駅「藍ランドうだつ」 ・工事着手 道の駅「藍ランドうだつ」、道の駅「三野」</p> <p>(H30) 2箇所工事完成 （道の駅「藍ランドうだつ」、道の駅「三野」）</p> <p>上記の取組み等により、西部圏域内の道の駅（4駅）の防災拠点化整備が完成した。</p>	
	●「道の駅」防災拠点化整備済箇所数（累計） ㉕ → ㉞ 4箇所		2箇所	2箇所	4箇所	-	1箇所	2箇所	4箇所	◎		

重点項目3 安全・安心な地域社会の形成

中項目2 災害に備えた基盤整備	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆☆	◎13・○1・△2 (2×13+1×1+0×2)/16 = 1.6 → ☆☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
50	災害時における孤立可能性集落等の防災力向上を図るため、交通の途絶解消に向けた臨時ヘリポートの整備や防災出前講座、訓練等を実施します。	推進	→	→	→						1 臨時ヘリポートを整備するとともに、孤立可能性地域において防災出前講座や訓練を行い、災害時における孤立化への対応体制を整えた。 ・孤立可能性地域での防災出前講座・訓練の開催（H27年 19回、H28年 34回、H29年 24回、H30年 26回） ・臨時ヘリポート降着訓練（H27年 7回、H28年 8回、H29年 2回、H30年 2回） ・圏域内の親子を対象に、孤立化を想定した「リアル避難所体験セミナー（1泊2日）」を三好市で開催（H27年 1回） ・県総合防災訓練の中で、孤立可能性集落を対象とした無線通信訓練を実施（H30.9.1） 上記の取組み等を行い、孤立可能性集落において、災害時の備えについて普及啓発することができた。	
	●臨時ヘリポートの箇所数 ㊦56箇所→㊦70箇所	61箇所	64箇所	67箇所	70箇所	64箇所	65箇所	67箇所	67箇所	△		
	●孤立可能性集落での防災出前講座又は訓練等の実施率【主要指標】 ㊦35.9%→㊦100%	60%	70%	80%	100%	84.3%	87.1%	87.5%	87.8%	○		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
51	土砂災害（土石流・地すべりなど）による被害から生命・財産を守るため、土砂災害危険箇所に関する情報を広く住民に提供し、土砂災害の危険性を再認識してもらうとともに、砂防設備等による要配慮者利用施設等の重点的な保全を図るなど、ハード・ソフト一体となった整備を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 土砂災害危険箇所の基礎調査実施率 (H27) 86%(1,476箇所) 美馬884箇所、三好592箇所 (H28) 100%(772箇所) → 目標達成済 美馬323箇所、三好449箇所</p> <p>2 土砂災害啓発マップの公表率 (H27) 60%(1,341箇所) 美馬693箇所、三好648箇所 (H28) 100%(2,248箇所) 美馬1,207箇所、三好1,041箇所 → 目標達成済</p> <p>3 土砂災害の危険性のある要配慮者利用施設及び避難場所の保全施設数 (H27) 1施設（累計：149施設） 中野地すべり防止区域内(美馬市) ・避難所 定光寺 ・避難所 河内多目的集会所 (H28) 3施設（累計：152施設） 古味急傾斜(三好市) ・要配慮施設 健祥会頼朝 西岡(2)急傾斜(三好市) ・避難所 西岡中学校 ・要配慮施設 グループホームもみじ (H29) 2施設（累計：154施設） 馬路急傾斜(三好市) ・避難所 馬路小学校 ・要配慮施設 馬路幼稚園 (H30) 1施設（累計：155施設） 紙屋(2)急傾斜(つるぎ町) ・避難所 紙屋小学校</p>	
	●土砂災害危険箇所の基礎調査実施率 ㉔32% → ㉔100%	86%	100%			86%	100%	100%	100%	◎		
	●土砂災害啓発マップの公表率 ㉔18% → ㉔100%	60%	86%	100%		60%	100%	100%	100%	◎	4 上記2、平成28年度数値目標86%である「土砂災害啓発マップの公表率」は、県HPを活用して土砂災害マップ公表するなど、積極的・かつ速やかな啓発に努めた結果、実施率100%として目標達成した。	
	●土砂災害の危険性のある要配慮者利用施設及び避難所の保全施設数（累計） ㉔139施設 → ㉔160施設	147施設	150施設	153施設	160施設	149施設	152施設	154箇所	155施設	△	上記の取組み等により、土砂災害に対するハード・ソフト一体となった整備の推進を行った。	
52	土砂災害による被害から生命・財産を守るとともに、人家、公共施設等の保全を推進します。	推進	→	→	→						土砂災害防止施設（地すべりによる被害防止や被害軽減を図るための地すべり防止工、渓流からの土砂流出を防止するための治山ダム工、山腹崩壊地の拡大崩壊防止や緑化復旧を図るための山腹工）の整備を推進した。	
	●土砂災害の危険性がある人家の保全数（累計） ㉔16戸 → ㉔155戸	73戸	97戸	129戸	155戸	79戸	110戸	138戸	156戸	◎	（保全した人家数） H27：39戸、H28：31戸、H29：28戸、H30年度：18戸	上記の取組み等を行い、土砂災害の危険性のある人家を保全することが出来た。

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
53	「平成26年8月豪雨」をはじめとする洪水被害から県民を守る予防的な治水事業を着実に進めます。	促進	→	→	→						1 吉野川脇町第一地区 ・平成28年度（H29.2竣工）完成 2 吉野川加茂第二地区 ・平成27年度（H27.11）起工。 ・平成27年度より用地取得及び、用地買収箇所の築堤工事と、稲持谷川樋門工事への着手。 ・平成28年度以降 平成27年度より引続き、 用地取得及び稲持谷川樋門工事を継続中。 ・例年、 「吉野川上流での大規模氾濫に関する減災対策協議会」を開催。 3 沼田地区 ・平成30年度より用地取得に着手。 国と県での用地先行取得と、土地開発公社への用地先行取得業務の一部を委託している。 上記の取組み等により、吉野川の河川整備を促進した。	
	●吉野川脇町第一地区の整備の促進 ㉕工事施工中→㉗完成	促進	→	—	—	促進	完成	—	—	◎		
	●吉野川加茂第二地区の整備の促進 ㉕用地買収中→㉗工事促進中	促進	→	→	→	促進	促進	促進	促進	◎		
	●吉野川沼田地区の整備の促進 ㉕着手→㉗調査中				促進				促進	◎		
54	森林の適切な管理と保全を進め、森林の多面的機能の向上を図ることにより、災害に強い森林づくりを推進します。	推進	→	→	→						補助事業を有効に活用しながら、管内の林業事業者と連携し、効率的・計画的な森林整備を推進した。 上記の取組み等により、災害に強い森林が造成された。	
	●間伐実施面積（累計） ㉕12,332ha→㉗15,800ha	14,000ha	14,600ha	15,200ha	15,800ha	14,070ha	14,949ha	15,670ha	16,356ha	◎		
55	農業基盤と生活基盤の保全のため、老朽農業用ため池の整備を促進します。	促進	→	→	→						1 平成25年度より継続して3箇所の老朽ため池整備を実施した。 (H28) 1池で供用開始（ため池本体工完成） (H29) 供用開始を予定していた1池で、左岸側山腹が台風により崩壊し、工事の一時中断、対策工実施により完成工期を延伸。 (H30) 実施中の2池において、堤体盛土工事を進め、防災効果が発生した。 上記の取組み等により、老朽農業用ため池の整備が進み、農業基盤と生活基盤の保全が図られた。	
	●老朽農業用ため池の整備箇所数（累計） ㉕18箇所→㉗21箇所	18箇所	19箇所	20箇所	21箇所	18箇所	19箇所	19箇所	21箇所	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
56	住宅の倒壊等から助かる命を助けるため、徳島県耐震改修促進計画に基づき平成32年度末の住宅の耐震化率100%を目標に、リフォーム・改修・住替え事業による木造住宅の耐震化の取組みを促進します。	促進	→	→	→						<p>1 木造住宅に関する耐震診断や耐震改修、リフォームや住み替え、また、耐震シェルター設置などの支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震診断 58戸(H27), 127戸(H28), 89戸(H29), 77戸(H30) 耐震改修【本格】 0戸(H27), 6戸(H28), 7戸(H29), 14戸(H30) 安全・安心なリフォーム【簡易】 0戸(H27), 20戸(H28), 17戸(H29), 27戸(H30) 住宅の住み替え【除去】 7戸(H27), 15戸(H28), 12戸(H29), 8戸(H30) 耐震シェルター設置 0戸(H27), 1戸(H28), 2戸(H29), 0戸(H30) <p>上記の取組み等により、木造住宅の耐震化を促進した。</p>	
	●木造住宅等の耐震診断から耐震改修や住替えへの支援 ㉗～㉙県民ニーズに100%対応	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	◎		
	●リフォームを伴う「木造住宅の耐震化工事」に対する支援 ㉗～㉙県民ニーズに100%対応	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	◎		
57	異常気象時における主要基幹道路である一般国道32号の事前通行規制区間の解消に向けた整備や大規模災害における集落の孤立防止のための道路の整備を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 一般国道32号猪ノ鼻道路の工事を促進した。 (H27・H28・H29・H30) 徳島県側より</p> <ul style="list-style-type: none"> 箸蔵第3橋 完成(H24.3) 箸蔵第2トンネル 完成(H26.8) 箸蔵第2橋 完成(H29.3) 箸蔵第1トンネル 施工中(H30.2着工) 箸蔵第1橋 施工中(H30.2着工) 西山トンネル 完成(H29) 込野第1橋、第2橋 完成 新猪ノ鼻トンネル(徳島県側) 施工中 全ての掘削工事を完了(R1.8.11貫通式)。 現在覆工コンクリート、舗装工等を順次施工中。 <p>2 一般国道32号改築防災(大歩危工区)の調査設計を促進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大歩危トンネル修正設計業務 改築防災地質調査業務 <p>3 落石等による集落の孤立化防止のため、落石の危険度が高く、対策の急がれる箇所において事業を推進した。 (H27)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般国道439号 他3路線8箇所(H28) 主要地方道山城東祖谷山線 他3路線7箇所(H29) 主要地方道西祖谷山山城線 他5路線11箇所(H30) 主要地方道山城東祖谷山線 他5路線11箇所 <p>上記の取組み等により、異常気象時における主要基幹道路である一般国道32号の事前通行規制区間の解消に向けた整備や、大規模災害における集落の孤立防止のための道路の整備を促進した。</p>	
	●一般国道32号猪ノ鼻道路(延長8.4km)の整備(再掲:25) ㉕工事施工中→㉗工事促進中(㉙供用)	促進	→	→	→	促進	促進	促進	促進	◎		
	●一般国道32号改築防災大歩危工区(延長2.5km)の整備 ㉕調査設計中→㉗事業促進中	促進	→	→	→	促進	促進	促進	促進	◎		
	●孤立防止のための道路整備	促進	→	→	→	促進	促進	促進	促進	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
58	「平成26年12月豪雪」をはじめとする大雪被害から孤立集落の発生を防ぐため、ライフライン部会（平成26年設置）等を通じ、生命線道路や緊急輸送道路等において、大雪等による倒木を防ぐ事前伐採を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 倒木等による集落の孤立化や停電、通信途絶などの被害軽減に向け、事前の倒木対策を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大利辻線（三好市） (H27) 勘内地区 L=978m, 野住1地区 L=750m 野住1地区 L=750m (H28) 野住2地区 L=750m, 影野3地区 L=940m (H29) 影野4地区 L=210m, 穴ノ内地区 L=500m ・三縄停車場線黒沢線 (H29) 中津川地区 L=150m (H30) 池田町中津川・漆川地区 L=1,190m (1,485本伐採) ・小谷西端山線（つるぎ町） (H27) 八千代地区 L=552m (H28) 八千代地区 L=50m, 高瀬地区 L=60m (H29) 紙屋地区 L=350m ・蔭名小野線 (H27) 日浦地区 L=301m (H28) 日浦地区 L=250m (H29) 半田地区 L=18m ・上連小野線 (H28) 八千代地区 L=150m (H29) 白石～平良石 L=990m ・端山調子野線（つるぎ町） (H30) 貞光地区 L=1,879m (813本伐採) <p>上記の取組み等により、大雪等による倒木を防ぐ事前伐採を推進した。</p>	

重点項目3 安全・安心な地域社会の形成

中項目3 地域を守る活動の推進	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆	◎13・○1・△3 (2×13+1×1+0×3)/17 = 1.5 → ☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
59	災害に即応できる体制を整えるため、防災関係機関や住民との連携強化を推進するとともに、職員の防災能力向上を図ります。	推進	→	→	→						<p>1 西部防災対策連絡会議、孤立化対策検討部会等を開催するとともに、職員の防災力向上のため防災訓練を実施することにより、災害時に即応できる体制を整備を図った。また、住民と連携し、西部圏域防災訓練を実施した。</p> <p>・西部防災対策連絡会議の開催： H27年 1回+3回（ライフライン部会2回・孤立化対策検討部会1回） H28年 1回+4回（調整会議） H29年 1回+3回（調整会議） H30年 1回+4回（防災時拠点運用部会2回・物流拠点拠点検討部会2回）</p> <p>・防災訓練：H27年 3回、H28年 3回、 H29年 3回、H30年 3回</p> <p>上記の取組み等により、防災関係機関との連携が強化され、職員の防災能力が向上した。</p>	
	●西部防災対策連絡会議・部会の開催回数 ㉕2回→㉗～㉙年間2回以上 ㉚年間4回以上	2回	2回	2回	4回	4回	5回	4回	5回	◎		
	●職員の防災訓練（図上訓練を含む）の実施回数 ㉕2回→㉗～㉙年間2回以上 ㉚年間3回以上	2回	2回	2回	3回	3回	3回	3回	3回	◎		
60	防災出前講座・訓練等を開催し、住民の防災意識の向上及び自主防災組織の育成を行うことにより、地域防災力の充実強化を図ります。	推進	→	→	→						<p>1 住民の防災意識向上のため、防災出前講座・訓練を行うとともに、自主防災組織の育成や活動を支援した。自主防災組織連絡会については、1市1町（美馬市・東みよし町）で結成されている。</p> <p>上記の取組み等により、防災出前講座・訓練については、順調に推移している。自主防災活動については、組織率の100%及び全市町連絡会の結成には至っていない。次年度は、自助・共助の要である防災士等を対象に研修会や視察等を行い、にし阿波の防災力向上を推進する。</p>	
	●防災出前講座・訓練等の開催回数 ㉕64回→㉗～㉙年間70回以上 ㉚年間100回以上	70回	70回	70回	100回	148回	225回	248回	200回	◎		
	●自主防災組織率 ㉕92.1%→㉚100%	95%	96%	98%	100%	92.5%	92.9%	93.3%	93.2%	△		
	●自主防災組織連絡会の結成市町数 ㉕2市町→㉚4市町	2市町	3市町	3市町	4市町	2市町	2市町	2市町	2市町	△		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
61	避難行動要支援者を適切に安全な場所へ避難誘導するため、避難支援方法等について普及啓発するとともに、地域における支援体制の整備を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 避難行動要支援者に対する啓発や訓練を実施し、地域での支援体制の整備を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者避難訓練 H27 4回、H28 25回、H29 34回、H30 6回 ・防災出前講座等での避難行動要支援者の普及啓発 H27 44回、H28年 51回、H29年 35回、H30年 36回 ・ボランティアフェスティバル等イベントでの普及啓発 H27年 4回、H28年 3回、H29年 4回、H30年 4回 <p>上記の取組み等を行ったが、H30年7月豪雨等の自然災害等があり、数値目標を達成できなかった。</p>	
	●避難行動要支援者避難訓練の実施回数 ㉕ 1回→ ㉗ 12回以上	4回	6回	8回	12回	4回	25回	34回	6回	△		
62	次代を担う小中高生の防災意識を高揚させるため、学校と連携し防災学習を推進することにより、未来の防災リーダーを育成します。	推進	→	→	→						<p>1 次世代の防災の担い手を育成するため、学校と連携し、小中高生に防災教育を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の親子を対象に、孤立化を想定した「リアル避難所体験セミナー(1泊2日)」を三好市で開催 (H27 1回) ・防災学習・啓発 小学校 : H28 2回、H29 2回、H30年 1回 中学校 : H27 3回、H28 3回、 H29 3回、H30 3回 支援学校 : H27 2回 高等学校での防災訓練及び啓発 : H27 5回、H28 3回、 H29 2回、H30 3回 ・高校生防災クラブ研修会 : H28 1回 ・西部圏域防災訓練 : H28:1回、H29:1回 <p>上記の取組み等により、防災に関する知識の普及や防災意識の向上が図られた。</p>	
	●小中高生への防災学習の実施回数 ㉕ 2回→ ㉗～㉙年間 4回以上 ㉚年間 7回以上	4回	4回	4回	7回	10回	8回	7回	7回	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
63	大規模災害発生時に迅速かつ適切な医療・保健衛生・薬務・介護分野の支援を提供するため、「災害時コーディネーター」をはじめ、関係機関の人材育成などを通じて、災害時における連携体制の充実を図るとともに、感染症等の健康危機に迅速に対応するため、関係機関と連携し健康危機管理体制の充実を図ります。	推進	→	→	→						<p>1 災害時コーディネーター全体会議等により、関係機関の情報共有及び連携体制の充実・強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時コーディネーター全体会議 H27:2回（美馬庁舎/県立三好病院） H28:2回（美馬庁舎/三好保健所） H29:2回（半田病院/三好保健所） H30:2回（半田病院/三好保健所） <p>2 健康危機管理研修会等の開催により、医療機関・福祉施設等における災害対策や感染症対策の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会 H27:155人 災害・感染症（美馬庁舎） H28:188人 健康危機・感染症（美馬庁舎） H29:143人 健康危機・感染症（美馬庁舎） H30:168人 健康危機・感染症（美馬庁舎） <p>3 関係市町、社会福祉協議会、福祉避難所指定施設等と連携し、福祉避難所開設・運営訓練を実施した。</p> <p>H29:福祉避難所開設・運営訓練実施（つるぎ町） 訓練のほか、「福祉避難所開設・運営マニュアル（訓練用）」を作成した。</p> <p>H30:福祉避難所開設・運営訓練実施（東みよし町） 福祉避難所指定施設にて、住民参加型訓練を実施した。</p> <p>上記の取組み等により、関係機関と連携した健康危機管理体制の充実を図った。</p>	
	●災害時コーディネーター全体会議等の開催回数 ⑰～⑳年間2回以上	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	◎		
	●災害や感染症等の健康危機管理研修会の開催 ⑰～⑲年間100人以上 ⑳年間150人以上	100人	100人	100人	150人	155人	188人	143人	168人	◎		
	●福祉避難所の具体的な開設手順や運営方法に関する訓練の実施 ㉑～㉓実施			実施	実施			実施	実施	◎		
64	高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫の家畜防疫に関する啓発・指導を推進するとともに、家畜伝染病発生時の防疫措置を迅速かつ的確に実施する体制を整備します。	推進	→	→	→						<p>1 高病原性鳥インフルエンザ等の発生に備え、説明会や研修会、防疫訓練等を行った。</p> <p>H27:説明会1回、訓練2回、検討会3回 H28:説明会1回、訓練3回、県訓練への参加1回 H29:説明会1回、訓練3回 H30:説明会1回、班別研修会4回</p> <p>上記の取組み等により、現地対策本部員が各自の役割について理解を深めた。</p>	
	●家畜防疫演習等の訓練の実施回数 ㉕2回→㉗～㉙年間4回	4回	4回	4回	4回	6回	5回	4回	5回	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
65	人とペット動物が共に暮らせる地域を目指して、関係機関等との連携を推進し、動物の適正な飼養管理の普及啓発と動物由来感染症対策や災害時ペット対策を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 ペット動物の啓発世帯数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狂犬病予防法に基づく犬の新規登録時における啓発件数 H27:379世帯、H28:243世帯、H29:319世帯、H30:384世帯 ・保健所失踪・苦情・指導時における啓発件数 H27: 20世帯、H28: 76世帯、H29: 77世帯、H30: 25世帯 <p>2 動物由来感染症モニタリング検査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野生動物（シカ・イノシシ：一般衛生検査等） H27:24検体、H28:41検体、H29:57検体 H30:40検体 ・狂犬病検査（犬、タヌキ等） H27:15検体、H28:2検体、H30:4検体 <p>3 動物愛護推進員等が自主的に行う動物愛護に関する普及啓発活動への支援や地域の防災訓練への参加により、災害時のペット対策について意識啓発を行った。</p> <p>上記の取組み等により、適切な飼養管理や災害時のペット対策について地域住民の意識の醸成を図った。</p>	
	●ペット動物の適正な管理に関する啓発世帯数 ⑲～㉑年間300世帯以上 ⑳年間350世帯以上	300世帯	300世帯	300世帯	350世帯	399世帯	319世帯	396世帯	409世帯	◎		
	●動物由来感染症モニタリング検査の実施 ⑲～㉑年間20検体以上 ⑳年間40検体以上	20検体	20検体	20検体	40検体	39検体	43検体	57検体	44検体	◎		
	●防災出前講座等を活用し、災害時ペット対策について普及啓発を図る。 ⑲～⑳年間5回以上	5回	5回	5回	5回	7回	5回	5回	5回	◎		
66	地域のネットワークが高齢者等を狙った特殊詐欺や悪質商法等の被害の未然防止に生かされるよう、消費生活全般にわたる啓発を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 消費者トラブル回避方法について、暮らしのサポーターや一般消費者が共に学ぶ消費者問題研修会を開催した。 (H27:1回、H28:1回、H29:1回)</p> <p>2 老人クラブ会員や地域住民等を対象に、消費者問題啓発出前講座を開催した。 (H27:4回279名、H28:5回280名、H29:7回272名、H30:5回279名)</p> <p>3 消費者情報センターと連携し、テレビ会議を活用した消費者大学校公開講座のサテライト講座を開催した。 (H27:2回、H28:1回、H29:1回、H30:1回)</p> <p>4 道の駅や県民センターでの消費者問題啓発パネル展示・DVD放映により、啓発を行った。 (H27:2回、H28:2回、H29:3回、H30:3回)</p>	
	●圏域内の「暮らしのサポーター」認定者数 ㉑22人→ ㉓35人	24人	26人	28人	35人	26人	29人	32人	33人	○	上記の取組み等により、高齢者等を狙った特殊詐欺や悪質商法等の被害の未然防止した。	
	●消費者問題出前講座受講者数 ㉑249人→ ㉒～㉓年間250人以上	250人	250人	250人	250人	279人	280人	272人	279人	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
67	食品の産地偽装等の不適正表示を防止し、食の安全・安心の確保に資するため、食品表示に関する調査等及び啓発を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 飲食店における食品の適正表示について立入調査を実施し、指導・啓発を行った。 (H27:8件、H28:9件、H29:16回、H30:5回)</p> <p>2 食品表示ウォッチャーからの通報等で立入調査した食品関連事業者に対して、指導・啓発を行った。 (H27:2件、H28:2件)</p> <p>3 関係部局が連携して、食品関連事業者に対して、適正な食品表示に係る広域監視を実施し、指導・啓発を行った。 (H27:10件、H28:13件、H29:4回、H30:15回)</p> <p>上記の取組み等により、食品の産地偽装等の不適正表示を防止し、食の安全・安心の確保した。</p>	
	<p>●とくしま食品表示Gメンの立入調査事業者数 【主要指標】 ㉕→㉗～㉙年間20事業者以上</p>	20 事業者	20 事業者	20 事業者	20 事業者	20事業者	24事業者	20事業者	20事業者	◎		

重点項目 4 健やかに暮らせる地域づくり

中項目 1 子育てを支える地域づくり	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆☆☆	◎8・〇1・△0 (2×8+1×1+0×0)/9 = 1.8 → ☆☆☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
68	出産や不妊についての悩みなど、妊産婦や乳幼児などに関する切れ目のない保健対策の充実を図ります。	推進	→	→	→						1 家庭訪問や不妊治療申請時など、様々な機会を活用し、妊娠（不妊相談含む）、出産、子育て等に関する相談を実施した。 上記の取組み等により、女性の健康に関する保健対策の充実を図った。	
	●女性の健康に関する相談支援件数 ⑳～㉑年間40件以上	40件	40件	40件	40件	57件	57件	67件	61件	◎		
69	就労形態に関わりなく、希望するすべての乳幼児に幼児教育と保育を提供し、子どもの集団生活の機会を確保するため、認定こども園の設置を推進します。	推進	→	→	→						1 新たな認定こども園設立や再整備に向けた市町への支援を行った。 【H30年度末（累計8箇所）】 ①江原認定こども園（H24運営開始） ②認定こども園脇町保育所（H27運営開始） ③認定こども園岩倉保育所（H27運営開始） ④認定こども園穴吹保育所（H27運営開始） ※H31.3月「穴吹認定こども園」として地元幼稚園等と統合し、落成した。 ⑤美馬認定こども園（H28運営開始） ⑥三野認定こども園（H27運営開始） ⑦東祖谷認定こども園（H25運営開始） ⑧西祖谷認定こども園（H26運営開始）	
	●認定こども園数【主要指標】 ㉕2箇所→㉖8箇所				8箇所	8箇所	8箇所	8箇所	8箇所	◎	上記の取組み等により、子育て支援機能の充実を図った。	
70	昼間に保護者が家庭にいない児童に適切な遊びと生活の場を確保するとともに、放課後児童クラブの活動充実に向けて、放課後児童支援員の資質向上を図り、児童の健全育成を推進します。	推進	→	→	→						1 放課後児童支援員の養成研修を実施し、資質向上を図った。 ・養成数（累計106人） 美馬市：22人、三好市：55人 つるぎ町：11人、東みよし町：18人 上記の取組み等により、放課後児童クラブの活動充実を図り、児童の健全育成に寄与した。	
	●放課後児童支援員の養成数（累計） ㉗1→㉘90人	20人	40人	60人	90人	49人	63人	84人	106人	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
71	<p>急な発熱などの病気となった場合、病院・保育所等に付設された専用スペース等において看護師等が一時的に児童を預かる病児・病後児保育を推進します。</p> <p>●病児・病後児保育実施市町数 ㉕ 2市町 → ㉗ 4市町</p>	推進	→	→	→						<p>1 市町と連携し、病児・病後児保育の普及や利用の促進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美馬市・つるぎ町対象：としま小児科 ・三好市・東みよし町対象：健生西部診療所 <p>上記の取組み等により、子育て支援環境の充実を図った。</p>	
72	<p>ひとり親家庭に対する相談支援の充実を図るとともに、ひとり親家庭が仕事と子育てを両立しながら自立できるよう、ハローワークなどの関係機関と連携した就労支援の強化を図ります。</p> <p>●母子・父子自立支援プログラムを活用した就職者数 ㉕ 12人 → ㉗～㉙年間 12人以上 ㉚年間 15人以上</p>	推進	→	→	→						<p>1 ハローワークと連携した就労支援の実施や母子・父子自立支援員による自立支援プログラムを活用した就労支援を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭自立支援プログラムによる就職件数 H27:19人就職（ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ策定件数:22人） H28:18人就職（ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ策定件数:24人） H29:17人就職（ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ策定件数:22人） H30:20人就職（ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ策定件数:30人） <p>上記の取組み等により、ひとり親家庭の自立支援の充実に寄与した。</p>	
73	<p>障がい児（者）とその家族が住み慣れた地域でともに暮らすことを支えるため、児童発達支援センターや指定相談支援事業所などの関係機関と連携し、相談支援体制の充実を図ります。</p> <p>●障がい児等に対する療育相談支援件数 ㉗～㉚年間 1,200件以上</p>	推進	→	→	→						<p>1 児童発達支援センターや指定相談支援事業所等と連携し、在宅障がい児（者）及びその家族等に対して、訪問又は外来による療育支援や施設職員等に対する療育技術指導を実施した。</p> <p>保育所を利用する児童や市町が利用決定を行う障がい児通所支援を活用する児童の増加などを主な要因として、県が実施する外来や訪問による療育相談への参加者数が減少し、平成29、30年度は目標に達しなかったが、県による上記の取組みと市町による障がい児通所支援などを併せて、障がい児（者）に対する療育支援の充実を図った。</p>	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
74	児童虐待の未然防止と早期発見・早期対応に向け、「189（いち早く）」（児童相談所全国共通ダイヤル）の周知を図るとともに、児童虐待防止対策会議の開催などを通じて、関係機関の連携強化や関係者の資質向上を図ります。	推進	→	→	→						<p>1 関係機関が連携して要保護児童等を支援する「要保護児童対策地域協議会（市町設置）」へ参加し、情報提供や必要な助言を行った。</p> <p>2 徳島県児童虐待防止対策会議を開催し、関係機関との連携を強化するとともに、研修を実施し、相談援助技術の向上を図った。</p> <p>3 「児童虐待防止推進月間（11月）」にあわせて、管内2市2町の庁舎及び西部県民局の4庁舎において虐待防止パネル展を開催した。 また、「189（いち早く）」（児童相談所全国共通ダイヤル）の周知を図った。</p>	
	●児童虐待防止研修会の受講者数 ⑦～⑩年間40人以上	40人	40人	40人	40人	41人	42人	41人	43人	◎	上記の取組み等により、関係機関との連携強化や関係者の資質向上を図った。	
75	DVの早期発見・早期対応を図るため、女性の多い事業所や団体等への啓発活動などを通じて、相談機関の周知やDVに対する正しい知識の普及を推進し、子どもや女性の安全確保に努めます。	推進	→	→	→						<p>1 女性の多い企業や保育園等を対象に出前講座を行い、センターの周知やモラルハラスメントについての対応、DV予防啓発を実施した。</p> <p>2 DV被害者等支援ネットワーク研修会やネットワーク会議を開催し、関係機関や女性サポートリーダーのDV被害者支援に関する技術向上と連携強化に努めた。</p> <p>3 「女性に対する暴力をなくす運動期間（11月）」にあわせて、管内2市2町の庁舎及び西部県民局内の4庁舎においてパネル展示を行い、DV相談窓口の周知と啓発に努めた。</p>	
	●DV防止出前講座実施事業所・団体数 ⑦～⑩年間3箇所以上	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	◎	上記の取組み等により、相談機関の周知やDVに対する正しい知識の普及、支援者のスキルアップを図った。	
	●女性サポートリーダー等を対象としたDV被害者等支援ネットワーク研修会の開催 ⑦～⑩年間30人以上	30人	30人	30人	30人	39人	40人	31人	31人	◎		

重点項目 4 健やかに暮らせる地域づくり

中項目 2 高齢者・障がい者を支える地域力の向上	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆☆☆	◎10・〇2・△0 (2×10+1×2+0×0)/12 = 1.8 → ☆☆☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
76	認知症の人やその家族が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域ぐるみで支える体制づくりを推進します。	推進	→	→	→						<p>1 地域における高齢者支援の充実を図るため、認知症サポーター数の増加を図り、地域での支援体制づくりを推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター数（累計9,148人） 美馬市：4,929人、三好市：2,297人 つるぎ町：754人、東みよし町：1,168人 <p>上記の取組み等により、地域住民の認知症に対する正しい理解や知識の向上を図り、認知症高齢者に優しい地域づくりを進めた。</p>	
	●認知症サポーター数【主要指標】 ㉕3,857人→㉗8,000人	5,000人	6,000人	7,000人	8,000人	6,058人	7,146人	8,345人	9,148人	◎		
77	高齢者等が住み慣れた自宅で安心して生活が継続できるよう、身体機能に応じた住宅改修等の推進を図ります。	推進	→	→	→						<p>1 住み慣れた自宅で生活できるよう市町と連携し、手すりの設置等の住宅改修について給付助成を行った。</p> <p>美馬市、つるぎ町、みよし広域連合</p> <p>H27：134件、55件、196件 H28：135件、61件、186件 H29：114件、71件、189件 H30：147件、53件、169件</p> <p>※H21年度より累計給付（助成）件数 3,781件</p> <p>高齢者住宅改修等の給付は、原則1回のみであることや要介護認定者数が減少傾向であることなどを背景に、数値目標にはわずかに届かなかったが、身体機能に応じた住宅改修等の支援を行うことにより、高齢者が自宅での生活を継続できるよう支援し、高齢者の生活の質の向上に寄与した。</p>	
	●高齢者住宅改修等給付（助成）件数 ㉗～㉙年間400件以上	400件	400件	400件	400件	385件	382件	374件	369件	○		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
78	高齢者の健康づくりやふれあい交流を促進するとともに、高齢者自らの能力養成や知識・技能をさらに高めるための学習機会を提供し、社会貢献活動を推進する人材を養成します。	推進	→	→	→						<p>1 県健康福祉祭西部サテライト大会 グランドゴルフやパークゴルフ、ウォーキングなど、高齢者に適したスポーツを通じて、高齢者の健康づくりや世代間、地域間の交流推進を図った。</p> <p>2 シルバー大学校、大学院において、“あい”ランド推進協議会及び関係市町等と連携し、ICT講座など、高齢者のニーズに応じた講座を開催した。</p> <p>(受講者数) シルバー大学校 H27 H28 H29 H30 美馬校 : 36人 38人 36人 36人 東みよし校 : 42人 30人 35人 37人 大学院ICT講座 東みよし校 : 17人 17人 17人 16人</p> <p>平成30年度は、シルバー大学校等の受講者数について、わずかに目標値を下回ったが、上記の取組みにより、高齢者の交流や学習の機会を提供し、生きがいつくりの促進や社会貢献活動を推進する人材を養成することができた。</p>	
	●県健康福祉祭西部サテライト大会参加者数 ②5→②7～②9年間600人以上 ③0年間700人以上	600人	600人	600人	700人	695人	718人	792人	777人	◎		
	●シルバー大学校（美馬校・東みよし校）・大学院ICT講座（東みよし校）の受講者数 ②576人→②7～③0年間77人以上 ③0年間90人以上	77人	77人	77人	90人	95人	85人	88人	89人	○		
79	障がい者の自立と社会参加の促進を図るため、障がい者就労支援ネットワークを充実するとともに、就労支援事業所等における就労支援機能を充実し、利用者の工賃アップを図ります。	推進	→	→	→						<p>1 施設利用者の工賃アップに向けて、県全体で官公需による障がい者支援事業所への優先発注を行うとともに、「とくしま障がい者“働きたい”応援事業」では、県民局のロビーを提供し、弁当等の販売実習に協力を行った。</p> <p>2 「にし阿波・障がい者雇を支える企業ネットワーク」を設立し、就労支援の体制を構築するとともに、企業と障がい者との就職マッチングを推進した。（H30現在会員 55事業所）</p> <p>3 管内市町障がい者自立支援協議会において、新規就労の増加に向けた連携強化を行うとともに、障がい者や関係機関を対象とした研修会を開催した。</p> <p>上記の取組み等により、障がい者の就労促進を図るとともに、県や市町など、官公需の優先発注などを通じて、県平均を上回る工賃に繋がった。 H29 西部 23,810円（H29 県平均 21,465円）</p>	
	●施設利用者の工賃（月額） ②520,495円→③022,000円	20,900円	21,300円	21,700円	22,000円	21,572円	22,052円	23,810円	R1.12 公表予定	◎		
	●就職を希望する障がい者とのマッチングに参加した企業数 ②5→③08社以上				8社				12社	◎		
	●障がい者や関係機関を対象とした研修会等の開催回数 ②7～③0年間5回以上	5回	5回	5回	5回	8回	8回	6回	6回	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
80	地元企業等と連携して障がい者が農作物の作付けを行う「にし阿波型チャレンジドファーム」の実践・拡大を図り、農業分野における障がい者の就労を促進します。	促進	→	→	→						<p>1 にし阿波農福連携推進連絡会議の開催 関係機関との情報交換（年1回）</p> <p>2 チャレンジドファームの設置（2カ所） （福）池田博愛会（三好市）（H27） （福）三好やまなみ会（東みよし町）（H30）</p> <p>3 ドクダミ、そば、野菜等の栽培指導 （H27：4回、H28：6回、H29：8回、H30：7回）</p> <p>上記の取組み等により、農業分野における障がい者の就労が図られた。</p>	
	●「チャレンジドファーム」における障がい者 就労者数 ②5ー → ②7～②9年間10人以上 ③0年間20人以上	10人	10人	10人	20人	17人	15人	18人	20人	◎		
81	「発達障がい者総合支援センター・アイリス」を拠点として、相談支援体制の充実を図るとともに、発達障がいに関する理解の促進と支援に従事する人材を育成します。	推進	→	→	→						<p>1 市町、西部こども女性相談センター、保健所及び福祉事務所等による子育て相談や個別ケース会議などを行うとともに、家族理解ワークショップなどの研修会に参加し、職員の資質の向上に努めた。</p> <p>2 児童発達支援センター等との連携により、障がい児やその家族への支援を実施した。</p> <p>3 発達障がいへの理解を深めるため、幼稚園、保育所等の職員を対象とした研修会を開催した。</p> <p>上記の取組み等により、支援者の資質向上を図るとともに、発達障がい児と関わる現場職員に対する研修の実施などを通じて、発達障がいに対する正しい理解の促進や人材の育成が図られた。</p>	
	●発達障がい研修会の受講者数 ②7～②9年間150人以上 ③0年間180人以上	150人	150人	150人	180人	198人	209人	151人	198人	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
82	生活困窮者自立支援ネットワークを構築し、生活保護に至る前の支援を充実するとともに、生活保護受給者の自立支援プログラムの活用により、生活保護受給者の自立促進を図ります。	推進	→	→	→						<p>1 県民局、市町、社会福祉協議会などで構成する西部ブロック定例支援調整会議や支援者のスキルアップセミナーの開催などを通じて、支援ネットワークを構築し、西部圏域における相談支援体制の充実を図った。</p> <p>2 生活保護受給者の自立支援プログラムを活用して、就労相談員、ハローワークなどの関係機関と連携し、就職に向けた就労支援を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援プログラムによる就職件数 H27:4人就職（プログラム策定件数：6件） H28:5人就職（プログラム策定件数：8件） H29:14人就職（プログラム策定件数：18件） H30:6人就職（プログラム策定件数：8件） <p>上記の取組み等により、西部圏域における相談支援体制の充実を図るとともに、就労支援などを通じて、生活保護受給者の自立促進に寄与した。</p>	
	●生活困窮者自立支援ネットワークの構築 ⑲構築	構築				構築	—	—	—	◎		
	●自立支援プログラムを活用した生活保護受給者の就職率 ⑳～㉑60%以上	60%	60%	60%	60%	66%	63%	78%	75%	◎		
83	公共施設、ショッピングセンター、病院、銀行などに設置された身体障がい者等用駐車場の適正利用を図るため、身体障がい者等用駐車場利用証（パーキングパーミット）の交付促進を図ります。	推進	→	→	→						<p>1 パーキングパーミット制度について、障がい者団体などへ利用促進に向けた周知啓発を実施するとともに、店舗等に依頼する等、駐車スペース協力事業所の拡大に向けた協力依頼などを行った。</p> <p>2 障がい者手帳新規取得者等に対し、市町を通じて周知啓発を図った。</p> <p>上記の取組み等により、身体障がい者等専用駐車場を本来必要とする方が、施設等を利用しやすくなるような環境づくりを進めることができた。</p>	
	●パーキングパーミットの交付件数（累計） ㉒769件→㉓1,650件	900件	1,350件	1,500件	1,650件	1,248件	1,466件	1,761件	2,070件	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
84	生活に必要なバス路線などを維持するため、市町の実組 みを支援するとともに、市町や交通事業者等と連携し、 公共交通機関利用促進の普及啓発を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 2市2町と連携し、公共交通機関の利用促進に 係る普及啓発機会を設け、情報発信に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴吹駅前にて剣山の山開きに合わせ、美馬市 と共催で利用促進キャンペーンを実施した。 (H27) ・東みよし町において、町の文化祭会場で利用 促進キャンペーンを実施した。(H28) ・集落における公共交通の利用状況聞き取り調 査を実施した。(H29) ・東みよし町のいきいきサロンにおいて、公共 交通機関の利用方法等の講座を実施した。 (H30) <p>上記の取組み等により、公共交通機関利用促進 の普及啓発を推進することができた。</p>	
85	「とくしま公共事業ユニバーサルデザイン推進ガイドラ イン」に基づき、ユニバーサルデザインによるまちづく りを推進します	推進	→	→	→						<p>1 ひとつの工事に1件以上、利用者の視点に 立った使いやすさの工夫を実践した。 「公共工事1件1UD（ワンワン運動）」</p> <p>2 既存公共施設のUD化について、施設の現状 を点検・評価し、ハード・ソフト両面から改 善策を実施した。</p> <p>(H27) 鳴門池田線 美馬市脇町拝原</p> <p>(H28) 鳴門池田線 美馬市脇町若宮から八幡神社下南</p> <p>(H29) 国道193号 美馬市脇町(夏子休憩所)</p> <p>(H30) 道の駅「みまの里」</p> <p>上記の取組み等により、ユニバーサルデザイン によるまちづくりを推進した。</p>	

重点項目 4 健やかに暮らせる地域づくり

中項目 3 健康な暮らしを支える保健・医療の充実	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆☆☆	◎19・○1・△1 (2×19+1×1+0×1)/21 = 1.8 → ☆☆☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
86	糖尿病をはじめとする生活習慣病対策の充実を図るため、運動習慣の定着や食習慣の改善に向けた環境づくりと住民の健康意識の醸成を図り、地域が一体となった健康づくりを推進します。	推進	→	→	→						<p>1 運動習慣の定着や食生活改善に向けて、「美馬・つるぎ糖尿病対策をすすめる会」と共催でウォーキング大会を開催するとともに、「わくわくトーク」として、糖尿病対策の課題や対策などについて、意見交換を行った。</p> <p>2 糖尿病性腎症重症化予防に関する療養支援者研修会の開催などを通じて、かかりつけ医や専門医、市町などの関係機関との連携による患者支援の充実を図った。</p> <p>3 糖尿病に関する知識の普及や理解を深めるため「世界糖尿病デー」において啓発普及を図った。また、住民の自主的な健康づくり活動を支援するため、運動や食生活の改善に向けた出前講座等を実施した。</p> <p>4 関係機関に対して野菜摂取量アップや食環境づくりについて重点的に働きかけ、登録事業所の拡大を図った。</p>	
	●圏域における糖尿病死亡率（人口10万対） （暦年）【主要指標】 ②5 26.4 → ③0 県の死亡率を下回る水準					H27 西部22.2 県14.9	H28 西部22.2 県14.2	H29 西部26.0 県19.8	H30 西部 (R2.4月頃) 県(R元秋)	△	糖尿病死亡率については、目標を達成できなかったが、上記の取組みなどにより、糖尿病死亡率は、全国ワースト1となった平成20年（西部死亡率 31.8）から徐々に改善傾向となっている。また、その他の数値目標は達成し、運動や食生活等に関する講座等の開催を通じて、住民の健康意識の醸成を図った。	
	●国民健康保険の被保険者で糖尿病患者のうち腎症の治療をしている方の割合 ②5— ～③0 6.8%				6.8%	—	—	—	6.5%	◎		
	●「世界糖尿病デー」啓発活動の実施回数 ②7～③0年間2回以上	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	6回	◎		
	●運動習慣の定着や食生活改善に向けた講座等の受講者数 ②7～②9年間600人以上 ③0年間900人以上	600人	600人	600人	900人	1,040人	978人	943人	1,059人	◎		
	●野菜摂取量アップ対策及び食環境づくりに取り組む事業所の登録数（累計） ②5— → ③0 85事業所	45 事業所	75 事業所	80 事業所	85 事業所	70事業所	81事業所	86事業所	88事業所	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
87	子どもの健やかな健康づくりを推進するため、関係機関・団体と連携し、子どもの頃からの正しい生活習慣の習得を図ります。	推進	→	→	→						<p>1 将来の糖尿病につながる肥満や生活習慣病の予防について理解を深めるため、学校関係者等に対して運動・栄養等に関する研修会を実施するとともに、小中学生に対して、食事や生活リズム等についての健康教育を実施した。</p> <p>2 子どものこころの健康づくりや将来的なメンタルヘルス対策として、「こころのピアスタッフ」を養成し、自分自身のこころの健康の保ち方や友達に相談されたときの対象方法について学んでもらい、こころの健康づくりを推進した。</p> <p>3 養護教諭・保健師等関係者に対して、睡眠の大切さやメディア等依存症について知ってもらうための研修会を実施した。</p> <p>4 管内高等学校保健展において健康づくりの啓発を実施した。 H27:6回（脇町、穴吹、つるぎ、池田、辻、三好） H28:6回（脇町、穴吹、つるぎ、池田、辻、三好） H29:5回（脇町、穴吹、池田、辻、三好） H30:6回（脇町、穴吹、つるぎ、池田、辻、三好）</p> <p>上記の取組み等により、学校保健等と連携した研修会の開催などを通じて、子どもに対する正しい生活習慣の意識啓発を進めた。</p>	
	●生活習慣病予防等の健康教育の受講者数 ⑰～⑲年間600人以上 ⑳年間800人以上	600人	600人	600人	800人	927人	977人	986人	881人	◎		
	●高校保健展における健康づくりの啓発の実施回数 ⑰～⑲年間4回以上 ⑳年間5回以上	4回	4回	4回	5回	6回	6回	5回	6回	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
88	子どもから高齢者までのむし歯・歯周病予防等、歯・口腔の健康づくりを推進します。	推進	→	→	→						<p>1 出前講座や高校祭等に向き、各世代毎に、ブラッシング指導や歯科検診の重要性、全身疾患との関わりを啓発し、口腔の健康づくりを推進した。特に障がい児・者の施設に対して健康教育を実施し、障がいを持つ当事者だけでなく関係者に対しても口腔保健の重要性を啓発し、施設として口腔保健対策の充実が図れるよう支援した。</p> <p>2 各種イベントにて歯科コーナーを設置し、パネル展示やパンフレット配布を行い周知を図るとともに、歯科相談や保健指導を行い、口腔の健康づくりを推進した。</p> <p>上記の取組み等により、各世代・障がい者施設での虫歯予防など、歯・口腔の健康意識の高揚を図った。</p>	
	●むし歯・歯周病予防等の健康教育の受講者数 ⑦～⑩年間800人以上	800人	800人	800人	800人	1,608人	1,674人	1,041人	1,275人	◎		
89	健康増進を図るため、西部圏域の拠点として「西部健康防災公園」の整備を推進します。 また、当該公園が健康づくりの拠点となるよう、スポーツやレクリエーション、健康講座の開催などを通じて、健康寿命アップに向けた利活用を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 西部健康防災公園の整備において、 (H27) 西部防災拠点施設の地質調査・基礎設計の実施 (H28) 三好市側の園路、高瀬谷川の連絡道 西部防災館(本館)に工事着工 (H29) 三好市側の造成・園路・距離標及び電源施設関係等の工事完了 美馬市側の園路・階段及び電源設備関係等の工事完了。 西部防災館(本館)の完成。 別館(物資集積施設)に工事着工。 (H30) 別館(物資集積施設)完成。 ※西部防災館(本館・別館)を平時、健康増進施設として活用</p> <p>2 西部健康防災公園を活用して健康防災フェスタやスポーツイベントなどを実施し、公園の認知度向上と健康増進を図った。 H27: パークゴルフ、サッカー大会、野球大会 ウォーキング教室ほか 計78,888人利用 H28: 健康防災フェスタ、パークゴルフ、 サッカー大会ほか 計83,124人利用 H29: 第2回健康防災フェスタ、パークゴルフ サッカー大会ほか 計91,772人利用 H30: 第3回健康防災フェスタ、 ブルーサークルウォーキング大会、 チャレンジドフットサル交流会ほか 計90,267人利用</p> <p>上記の取組み等により、公園の利活用の推進を図った。</p>	
	●西部健康防災公園の整備 ⑦西部健康防災公園の着手 ⑧健康増進施設の着工	着手	着工			着手	着工	本館完成	別館完成	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
90	西部健康防災公園が「健康づくりの拠点」となるよう、スポーツやレクリエーション、健康講座の開催などを通じて、だれもが気軽に参加できる健康づくりを推進します。	推進	→	→	→						1 西部健康防災公園を活用して健康防災フェスタやスポーツイベントなどを実施し、公園の認知度向上と健康増進を図った。 H27: パークゴルフ、サッカー大会、野球大会 ウォーキング教室ほか 計78,888人利用 H28: 健康防災フェスタ、パークゴルフ、 サッカー大会ほか 計83,124人利用 H29: 第2回健康防災フェスタ、パークゴルフ サッカー大会ほか 計91,772人利用 H30: 第3回健康防災フェスタ、 ブルーサークルウォーキング大会、 チャレンジドフットサル交流会ほか 計90,267人利用	
	●公園を活用したスポーツやレクリエーションの参加者数 ⑳年間10万人以上	7万人	8万人	9万人	10万人	78,888人	83,124人	91,772人	90,267人	○		
	●健康防災フェスタの開催 ㉘開催 ㉙西部健康防災公園プレオープン記念事業開催 ㉚西部健康防災公園オープン記念事業開催		開催	プレオープン記念事業開催	オープン記念事業開催		開催	プレオープン記念事業開催	オープン記念事業開催	◎	2 西部防災館を活用し、地元防災士会と連携した防災講座や健康増進に関する講座を開催した。 H30: 防災に関する講座 25回 健康増進に関する講座 23回	
	●西部防災館を活用し、県民を広く対象にした防災及び健康増進講座等実施回数（再掲） ㉛ー → ㉜年間30回以上				30回				48回	◎	公園を活用したスポーツやレクリエーションの参加者数は、目標値を達成できなかったが、上記の取組み等により、公園を拠点として、地域住民の健康づくりに寄与した。	
91	たばこ、COPD（慢性閉塞性肺疾患）に関する正しい知識の普及と受動喫煙防止対策など、たばこの煙のない、おいしい空気のにし阿波づくりを推進します。	推進	→	→	→						1 学校保健と連携し、喫煙防止講座を開催するなど、たばこやCOPD（慢性閉塞性肺疾患）に関する正しい知識の普及啓発に取り組んだ。 2 健康増進法の改正に伴う受動喫煙対策の一環として、西部圏域の飲食店756店舗を対象に、受動喫煙防止対策の実施状況について調査を実施した。（H30）	
	●高校生等を対象とした喫煙防止講座の開催回数 ㉞～㉟年間4回以上 ㊱年間5回以上	4回	4回	4回	5回	6回	6回	5回	5回	◎	上記の取組み等により、次世代を担う若い世代の喫煙防止に関する意識を向上することができた。 また、受動喫煙対策に向けた調査結果から、西部圏域の実態を把握した。	
	●COPD（慢性閉塞性肺疾患）の啓発普及の実施回数 ㉞～㉟年間2回以上 ㊱年間6回以上	2回	2回	2回	6回	2回	3回	5回	6回	◎		
92	自殺予防など、こころの健康に関する相談支援体制の充実を図るため、身近な場所で気軽に相談できる環境づくりや相談機関への橋渡しができる人材の育成を推進します。	推進	→	→	→						1 「はあとケア相談会」を開催し、気軽に相談できる機会を提供した。 2 地域住民や関係機関に向けた「おせっかい塾」「自殺予防サポーター養成講座」等を開催し、人材育成を図った。 3 子どものこころの健康づくり対策として、「こころのピアスタッフ」を養成し、自分自身のこころの健康の保ち方や友達に相談されたときの対象方法について学んでもらった。 また、養護教諭・保健師等関係者に対して睡眠の大切さやメディア等依存症について知ってもらうための研修会を実施した。	
	●「はあとケア相談会」等における相談支援件数 ㉞～㉟年間250件以上 ㊱年間300件以上	250件	250件	250件	300件	415件	418件	400件	429件	◎		
	●「おせっかい塾」等の人材養成講座受講者数 ㉞～㉟年間100人以上	100人	100人	100人	100人	111人	132人	100人	110人	◎		
	●自殺予防サポーター数 ㉞2,132人 → ㊱5,000人	3,400人	3,700人	4,800人	5,000人	3,706人	4,554人	5,226人	6,059人	◎	上記の取組み等により、身近な場所で相談できる環境づくりや地域の人材育成等を通じ、相談支援体制の充実を図った。	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
93	ひきこもりがちな当事者や家族に対する個別支援を充実させるとともに、NPO法人などの関係機関と連携し、ひきこもり支援対策の充実を図ります。	推進	→	→	→						<p>1 ひきこもりがちな当事者や家族に対する個別支援の充実を図った。</p> <p>2 NPO法人・ハローワーク・教育機関などの関係機関と連携し、関係者会議や事例検討会を実施した。</p> <p>上記の取組み等により、個別支援をはじめとするひきこもり支援対策の充実を図った。</p>	
	●ひきこもりに関する相談支援件数 ⑲～㉑年間10件以上 ㉒年間30件以上	10件	10件	10件	30件	34件	45件	38件	39件	◎		
94	在宅医療の充実を図るため、地域医療の理解促進や保健・医療・福祉の連携推進に向けた人材育成を進めるとともに、関係機関による救急医療対策連絡協議会の開催などを通じて、県立三好病院を核とした救急医療連携体制の強化に努めます。	推進	→	→	→						<p>1 地域医療の課題について理解を深めるとともに、地域医療を支援するリーダーを養成するため、地域医療支援リーダー養成講習会を開催した。</p> <p>2 地域医療に関する人材育成を図るため、研修会を実施した。 H27:143人（心肺蘇生、嚥下） H28:193人（高齢者の口腔管理 他） H29:151人（看取り、感染症対策 他） H30:165人（糖尿病ケア、口腔ケア、他）</p>	
	●地域医療支援リーダー数（累計） ⑲126人→㉒280人	170人	200人	250人	280人	195人	240人	279人	308人	◎	<p>3 地域における救急医療体制を確保するため、救急医療対策連絡協議会を開催し、関係機関との連携強化を図った。</p>	
	●地域医療に関する人材育成研修会の受講者数 ⑲～㉑年間100人以上 ㉒年間150人以上	100人	100人	100人	150人	143人	193人	151人	165人	◎	<p>上記の取組み等により、地域医療について、地域住民の理解を深めるとともに、協議会の開催による情報交換などを通じて、救急医療連携体制の強化を図った。</p>	
	●救急医療対策連絡協議会の開催回数 ⑲～㉒年間2回以上	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	4回	◎		

重点項目5 活力ある地域経済の振興

中項目1-1 「にし阿波型もうかる農業」の確立と推進	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆☆	◎16・〇0・△2 (2×16+1×0+0×2)/18 = 1.7 → ☆☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
95	もうかる農業の実現に向け、圏域の地域特性を活かした「にし阿波型農業モデル」を確立・推進します。	推進	→	→	→						1 推進上の問題点を把握し、地域に農業者が残る農業経営の取組みを推進した。(H27) 2 中核農家モデルの確立・推進を図るため、IPM技術、有望品種の導入支援等を行った。(H28) 3 かあちゃん野菜の周年出荷を図るため、新品目の導入や乾燥機を利用した干し芋の商品化を行った。(H29) 4 かあちゃん野菜における夏期の病害虫対策として、防虫ネットの導入支援を行った。(H30)	
	●中核農家モデル（年間所得500万円を目指したモデル）【主要指標】 ①夏秋なす+ブロッコリーなど ②夏秋いちご+促成（冬春）いちごなど ③ぶどう（複数品種の導入）など ④養鶏（阿波尾鶏）など 中核農家モデル経営体数 ⑦→⑩35経営体			30 経営体	35 経営体	-	-	30経営体	36経営体	◎	上記の取組み等により、「にし阿波型農業モデル」が確立されるとともに経営体が育成された。	
	●女性・高齢者モデル ①インゲン+ピーマンなど（かあちゃん野菜など） ②山菜（なのはな、山ふき）+かんしょ（加工用） または薬用植物など 女性・高齢者モデル経営体（販売額50万円以上） ⑦→⑩100経営体			70 経営体	100 経営体	-	-	70経営体	103経営体	◎		
96	国の予算と本県独自の基金を活用することにより、「現場の声」をしっかりと受け止め、「守りと攻め」の観点から「にし阿波」地域の特性に応じたきめ細やかなTPP対策を推進します。	推進	→	→							本県独自の基金を活用し、農業用施設や機械を整備することにより、意欲ある農業者等の経営改善及び産地育成を図った。 H27：製茶作業場の整備、ネギ防除機 H28：大麦若葉加工ライン、産直用ハウス H29：水稲種子貯蔵施設、食品乾燥機 H30：乾燥加工施設、加工野菜ハウス 等 上記の取組み等により、茶をはじめとしたTPP対象品目等の体質強化を図ることにより、中山間地域であるにし阿波の特性に応じた農業生産基盤が強化された。	
97	高校生、大学生、農大生等に対し「にし阿波型農業モデル」をPRし、新規就農の推進を図るとともに、就農者の経営技術向上を支援します。	推進	→	→	→						1 インターンシップによる就農支援を行うと共に、農業次世代人材投資資金（旧 青年就農給付金）交付対象者への農業簿記研修や営農相談を行った。 ・農業次世代人材投資資金交付対象者 H27：4人 H28：4人 H29：5人 H30：2人	
	●新規就農者育成数（累計） 研修等受講者数⑤14人→⑩30人	19人	22人	25人	30人	23人	27人	32人	34人	◎	上記の取組み等により、新規就農が進むとともに就農者の経営技術向上が図られた。	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
98	WCS（ホール・クローブ・サイレージ）の耕畜連携の取組みにより、水田利活用と畜産経営の改善など、産地活力の向上を推進します。 ※WCSとは、稲の実と茎葉を同時に収穫し発酵させた牛の飼料	推進	→	→	→						1 にし阿波WCS生産流通研究会の開催（H27:0回、H28:2回） 2 展示ほの設置（面積）（H27:5ha、H28:6.4ha、H29:8.0ha、H30:8.6ha） 3 収穫作業の委託調整（H27:1回、H28:1回、H29:1回、H30:無） 30年度は他団体に委託せず、畜産農家自身で収穫した。 4 農家現地指導回数（H27:3回、H28:5回、H29:10回、H30:15回）	
	●WCSの生産と利用推進 ㊦WCS水稲面積 → ㊧20ha	3ha	13ha	20ha	20ha	12.9ha	18.1ha	22.3ha	20.1ha	◎	上記の取組み等により、自給飼料の生産が拡大し、畜産経営の改善が図られた。	
99	野生鳥獣による被害防止対策を総合的に進めます。	推進	→	→	→						1 鳥獣被害防止対策の講習会やパンフレットによる情報提供、補助事業による計画的な防護柵や捕獲檻等の導入により、野生鳥獣による被害防止対策を実施した。 2 市町、JA等の担当者を鳥獣被害対策指導員に認定し、農家や集落に対し、鳥獣被害防止の正しい知識の普及を推進した。しかしながら市町、JA等の担当者の異動が無く、鳥獣被害対策指導員の取得者が伸び悩んだ。	
	●集落等の鳥獣被害防止施設の整備件数（累計） ㊦104件 → ㊧120件	110件	113件	116件	120件	111件	114件	118件	120件	◎	上記の取組み等により、野生鳥獣による被害防止が図られた。	
	●鳥獣被害対策指導員数（累計） ㊦17人 → ㊧35人	23人	26人	29人	35人	22人	25人	27人	31人	△		
	●モンキーダッグの育成頭数（累計） ㊦18頭 → ㊧30頭	21頭	26頭	28頭	30頭	25頭	28頭	29頭	31頭	◎		
100	産地活力向上のため、農業生産基盤（用排水路・農道等）や農村生活環境基盤（集落道）の整備を図ります。	推進	→	→	→						1 補助事業を活用し、ほ場整備、農道整備およびため池整備等の整備を実施。 H27 3集落（中山間総合整備事業：三野西部、脇中央） H28 5集落（中山間総合整備事業：三野西部、基幹水利ストマ事業：三好南岸、ため池等整備事業：新池） H29 1集落（広域農道整備事業：吉野川中部2期） H30 7集落（中山間総合整備事業：三野西部、三好、基幹水利ストマメンテナンス事業：三好南岸、ため池等整備事業：坊僧池）	
	●用排水路・農道等の事業実施により受益が発現する集落数 ㊦38集落 → ㊧60集落	48集落	52集落	56集落	60集落	47集落	52集落	53集落	60集落	◎	上記の取組み等により、16集落で農業生産基盤や農村生活環境基盤の整備が図られた。	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
101	高品質で、にし阿波ブランドを代表する、特色ある商品づくりを推進します。	推進	→	→	→						1 新規登録認定に向けた支援 (H27: 3件、H28: 2件、H29: 1件、H30: 4件) 2 更新認定に向けた取組支援（累計） (H29: 4件、H30: 10件) 3 認定商品 【一次産品】 「三野のはれひめ」「自然が育てた美馬のブルーベリー」など 【加工食品】 「溪谷の茶大歩危茶」「激辛薬味みまから」など 管内を代表する優れた商品の認知度向上や販路拡大に貢献できた。29年度からは、2年間の認定期間満了を受けて、更新申請に向けての支援を行った。	
	●とくしま特選ブランド登録数（累計） ㉔3件→㉕12件	6件	7件	8件	12件	8件	10件	11件	15件	◎	上記の取組み等により、にし阿波ブランドを代表する、特色ある商品づくりが進んだ。	
102	安全・安心の価値を高め、アピールするため、「とくしま安 ² GAP農産物認証」の取得を推進します。	推進	→	→	→						1 新規GAP農家の認証支援（新規件数） H27: 0件 H28: 1件（イゴGGAP） H29: 3件（ブルーベリー、そらまめ、干し芋） H30: 2件（ゆず、畜産JGAP）	
	●とくしま安 ² GAP農産物認証取得件数（累計） ㉔12件→㉕20件	14件	15件	17件	20件	14件	15件	18件	20件	◎	上記の取組み等により、GAP認証を推進し、安全・安心な農産物の価値向上が図られた。	
103	圏域で生産した飼料用米を与えた阿波尾鶏の飼養羽数の増加を図ります。	推進	→	→	→						1 にし阿波飼料用米生産流通研究会の開催 (H27: 2回、H28: 2回、H29: 1回、H30: 無) H30は研究会を開催せず畜産農家とJAで直接調整した。 2 保管体制の整備 (H28: 飼料タンク、フレコバッグスケール: つるぎ町) 3 飼料用米給与モデル鶏舎の整備 (H28: 鶏舎1棟: 美馬市) 4 飼料用米給与実証試験（年間給与）の実施 (H30: 鶏舎1棟: 美馬市)	
	●圏域で生産した飼料用米を与えた阿波尾鶏の飼養羽数【主要指標】 ㉔— → ㉕500千羽	225千羽	275千羽	450千羽	500千羽	384千羽	550千羽	550千羽	550千羽	◎	上記の取組み等により、飼料用米の需給調整を行うことで、阿波尾鶏の出荷羽数が維持できた。	
104	若手農林業従事者等による、にし阿波の農林業の紹介・PRなどの情報発信が積極的に進むよう、支援体制づくりを進めます。	推進	→	→	→						1 青年農業者クラブの活動として、四国大学生との交流会や阿波の狸まつり等における農産物の販売等により、にし阿波地域の農業を紹介した。 (H27: 2回 H28: 2回 H29: 2回 H30: 2回) 2 H27年度に「新次元林業プロジェクト」により展開している林業を核とした「地方創生」モデルを発信するために製作した、林業PR短編映画「林こずえの業」を全国で上映し機械化の進んだ林業をPRした。 また、同年度に林業経営体をPRするパンフレット「にし阿波の元気な事業体」を作成し、県内外に配布し新規担い手の確保を推進した。	
	●にし阿波の農林業紹介の情報発信	推進	→	→	→	推進	推進	推進	推進	◎		
	●新たな担い手確保のため、「林業をPRする短編映画」による情報発信 ㉔～㉕推進	制作	推進	推進	推進	制作	推進	推進	推進	◎	上記の取組み等により、新たに担い手の確保に向けた情報発信が図られた。	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
105	とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業を活用し、農山漁村（ふるさと）協働パートナーと農山村の住民による協働活動を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 そば、ゆず、八朔、ジャガイモの収穫等の農作業支援、鳥獣害防止柵設置作業など協働活動を実施。</p> <p>H27：9件 20団体 パートナ-213名 地元234名 H28：11件 13団体 パートナ-313名 地元226名 H29：15件 13団体 パートナ-261名 地元137名 H30：14件 12団体 パートナ-179名 地元271名</p> <p>上記の取組み等により、農山漁村（ふるさと）協働パートナーと農山村の住民による協働活動の推進が図られた。</p>	
	●農山漁村（ふるさと）協働パートナーとの協働活動実施数 ⑳→㉗～㉙年間5件以上 ㉚年間8件以上	5件	5件	5件	8件	9件	11件	15件	14件	◎		
106	地元の市町や関係者と連携し、世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」の保全・継承に向けた取組みを推進します。	推進	→	→	→						<p>1 世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」を未来に継承していく取組みとして、世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」ブランド認証制度における応援商品による応援者からの寄附や農作業・集落活動支援の受付制度が世界農業遺産推進協議会内に整備された。</p> <p>2 国際ボランティア等による農地の保全活動や地域内外の支援者による交流活動が実施された。 ・世界農業遺産フィールドワーク 2件 ・世界農業遺産国際ワークキャンプ 4件 （ドイツ、フランス、スペイン、ロシアなど16の国から31名が参加） ・とくしま農山漁村応援し隊事業 12件</p> <p>3 徳島剣山世界農業遺産推進協議会において、世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」ロゴマークを決定し、ブランド認証の制度を創設した。（H30）</p> <p>4 世界農業遺産1周年認定記念シンポジウム（H30.3.9）でロゴマークを披露し、その後ブランド認証の第1回募集を行った結果、認証が翌年度となった。 令和元年度第1回認証件数 19件</p> <p>上記の取組み等により、世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」の保全・継承に向けた取組みが進んだ。</p>	
	●人材や資金の外部サポートを活用する「保全バンク」の創設 ㉕→㉚創設				創設				創設	◎		
	●傾斜地における農地の保全・農業生産の維持活動実施数 ㉕→㉚年間10件以上				10件				18件	◎		
	●世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」ブランド認証制度の創設 ㉕→㉚創設				創設				創設	◎		
	●世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」ブランド認証制度による認証件数 ㉕→㉚10件				10件				0件	△		

重点項目5 活力ある地域経済の振興

中項目1-2 6次産業化・海外輸出による「新にし阿波農林業」への挑戦	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆	◎5・○1・△1 (2×5+1×1+0×1)/7 = 1.5 → ☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
107	農産加工を始め、直売や農家民宿等の「にし阿波」ならではの地域資源を生かした多様な6次産業化などに取り組む農業者等を育成・支援します。	推進	→	→	→						<p>1 6次産業化に取り組む農業者等に対して、支援制度・商談会等の情報提供や栽培指導などを行い、取組みを支援した。</p> <p>H27:小川生薬（東みよし町）：ドクダミ茶 H28:竹中農園（美馬市）：自家製小麦そうめん H29:合同会社法市の干し芋（東みよし町）：干し芋 H30:西洲農産加工研究会（美馬市）：干し芋、干し柿等</p> <p>上記の取組み等により、地域資源を生かした6次産業化が図られた。</p>	
	●新たに6次産業化や農商工連携に取り組む経営体数（累計） ②5 4経営体→ ③0 10経営体	6 経営体	7 経営体	8 経営体	10 経営体	7経営体	8経営体	9経営体	10経営体	◎		
108	圏域で生産される「そのそば」、「みまから唐辛子」等を活用した6次産業化の取組みを支援します。	推進	→	→	→						<p>1 そらのそばのPRを図ると共に、個別にそのそば協力店の登録を推進した。</p> <p>2 とうがらしは、加工品の生産拡大のため、原料となる高品質、高収量性のとうがらしの優良系統栽培を推進するとともに新規栽培者の掘り起こし、栽培技術の向上支援を行った。</p> <p>上記の取組みにより、圏域で生産される「そのそば」、「みまから唐辛子」等を活用した6次産業化が図られた。</p>	
	●そのそば協力店の登録数（累計） ②5 6店舗→ ③0 40店舗	20店舗	33店舗	36店舗	40店舗	30店舗	33店舗	36店舗	40店舗	◎		
	●加工品みまからの原料となる唐辛子の生産面積 ②5 0.6ha→ ③0 2ha	1.2ha	1.4ha	1.6ha	2.0ha	1.2ha	1.3ha	1.4ha	2.0ha	◎		
109	にし阿波ならではの魅力ある直売所として、消費者と生産者の交流や地域産品の品揃えを促進します。	促進	→	→	→						<p>○農産物直売所店舗数 美馬市：14 つるぎ町：2 三好市：8 東みよし町：4</p> <p>・研修会の開催（4回）等により販売促進に対する意識向上を図った。（H27） ・漬け物加工等の研修会等を開催し、商品作りに対する意識向上を図った。（H28） ・産直市による地域活性化に向けた商品づくりの研修会を開催（4回）、また先進地視察（2回）を実施し、意識向上を図った。（H29） ・研修会の開催（三好2回、美馬6回）、視察研修（美馬1回）等により、商品の表示や安全性、売り場の充実に対する意識向上を図った。（H30）</p> <p>上記の取組み等により、消費者と生産者の交流が進むとともに地域産品の品揃えが充実した。</p>	
	●農産物直売所の売上額 ②5 866百万円→ ③0 1,000百万円	899 百万円	932 百万円	965 百万円	1,000 百万円	893百万円	948百万円	974百万円	1,037百万円	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
110	農産物直売所における米を使った商品の販売や酒米生産への取組みなどにより、「売れる米づくり」を推進します。	推進	→	→	→						<p>(H27) 農産物直売所の商品作りについてアドバイザーを派遣するなど、米を使った商品生産について支援するとともに、酒米の品種試験（吟のさと・玉栄）を実施し、新酒を試作した。</p> <p>(H28) 東みよし町に発足した「美濃田酒米生産組合」の栽培拡大・品質向上等に向けた取組を支援した。</p> <p>(H29) JA農協祭で「きぬひかり」に代わる耐暑性品種「あきさかり」の販促活動を支援するとともに、直売所向け生産者を対象に栽培講習等を実施した。</p> <p>(H30) 栽培講習会を開催することにより「あきさかり」の栽培面積が徐々に増加した。</p>	
	●売れる米づくりに取り組む農産物直売所数（累計） ㉕→㉞5店舗	1店舗	2店舗	3店舗	5店舗	1店舗	2店舗	3店舗	5店舗	◎	上記の取組み等により、「売れる米づくり」に取り組む直売所が増加した。	
111	「にし阿波」ならではの農林産物や6次産業化による加工品の海外輸出への取組みを推進するとともに、東京オリンピック・パラリンピック等も見据えたインバウンド需要開拓に積極的にチャレンジします。	推進	→	→	→						<p>(H27) ハッサクのEU基準での栽培管理の指導や情報提供等ハラールに対応したと畜・食肉処理施設の整備等を支援。</p> <p>(H28) EU向けにハッサクの輸出開始。 牛肉のインドネシア、マレーシア向け輸出の取組み支援。</p> <p>(H29) ハッサクの輸出量が前年度の3倍に増加。 牛肉の輸出開始。</p> <p>(H30) 牛肉、こんにゃく、阿波尾鶏の輸出額が増加。</p>	
	●農林産物や加工品等の輸出金額【主要指標】 ㉕0.05億円→㉞2.5億円	0.06億円	0.1億円	1.0億円	2.5億円	0.06億円	0.1億円	0.9億円	1.1億円	△	上記の取組み等により、輸出額が増加した。 しかし、輸出金額の大きな牛肉では、相手国が限定されること、和牛は相手国では高級品で購入量が限定されること、近年、国内の枝肉価格も上昇しており、輸出経費も掛かることから輸出が優先されない状況にあり、目標額に至らなかった。	
112	ジビエや和牛などにおいて、ハラール認証の取得を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 ハラール認証取得支援</p> <p>①H27: 美馬市 (株)カタオカ ②H28: 東みよし町 (株)にし阿波ビーフ ③H29: つるぎ町 貞光食糧工業(株) ④H30: 美馬市 (株)田村組</p>	
	●ハラール認証事業者数（累計） ㉕→㉞5事業者	1事業者	2事業者	3事業者	5事業者	1事業者	2事業者	3事業者	4事業者	○	上記の取組み等により、ジビエや和牛などにおいて、ハラール認証の取得につながった。 しかし、ハラール認証取得業者については食肉業者にほぼ限定される。輸出を念頭に置いた食肉業者については、ほぼ認証取得した。	
113	東京オリンピック関連施設への「にし阿波」地域産木材（内装材、樹の紙など）の利用促進に取り組まします。	推進	→	→	→						<p>1 関連施設の設計・施工に関係すると想定される業者からの情報収集に努めるとともに地域内業者に情報提供を実施した。また、展示商談会等への出展により大消費地へのPRを実施した。</p> <p>2 H30年度には、2020東京リ・パワ選手村建設用として、美馬市の民有林2箇所伐採された木材を提供した。</p>	
											上記の取組み等により、オリ・パラ関連施設への「にし阿波」産木材の利用促進が図られた。	

重点項目5 活力ある地域経済の振興

中項目2 森林・林業を核とした「地方創生」	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆☆	◎11・〇1・△1 (2×11+1×1+0×1)/13 = 1.7 → ☆☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
114	主伐に対応した先進林業機械による「新林業生産システム」を導入するとともに効率的な路網を整備することにより素材生産量の増産を図ります。	推進	→	→	→						1 先進林業機械等の購入及び稼働計画作成支援を行い、素材生産の増大に寄与するよう関係者とともに取組み、増産及び従事チーム数増加に結びついた。 2 森林所有者と林業事業者とのマッチングを行い、森林売買や経営委託を促すことで、森林資源の循環利用を図る取り組みを支援した。 3 林業事業者に対し、県産材増産に必要な林道を補完し、さらに生産効率を高める林業専用道の開設計画の作成を支援した。（4路線） 上記の取組み等により、素材生産量の増産が図られた。	
	●素材生産量【主要指標】 ㉕131,000m ³ → ㉗180,000m ³	143,250 m ³	155,500 m ³	167,750 m ³	180,000 m ³	166,240m ³	178,936m ³	198,173m ³	202,099m ³	◎		
	●新林業生産システム従事チーム数 ㉕14チーム → ㉗18チーム	15 チーム	16 チーム	17 チーム	18 チーム	15チーム	16チーム	17チーム	18チーム	◎		
	●林内路網開設延長（累計） ㉕2,973km → ㉗3,480km	3,130 km	3,170 km	3,390 km	3,480 km	3,204km	3,319km	3,425km	3,503km	◎		
115	森林施業の集約化と計画的な施業への転換を図るため、森林経営計画の策定を促進します。	促進	→	→	→						1 一体的なまとまりのある区域を中心に、計画的で適正な森林施業を実施する「森林経営計画」の策定支援を行った。 上記の取組み等により、森林経営計画策定が進んだ。	
	●森林経営計画の策定（累計） ㉕6,561ha → ㉗13,000ha	9,000 ha	9,300 ha	12,500 ha	13,000 ha	10,563ha	11,247ha	13,453ha	16,094ha	◎		
116	伐採後の造林を推進する「にし阿波循環型林業支援機構」を活用し、木材生産及び造林面積の拡大により持続的な林業経営の確立を目指します。	推進	→	→	→						1 林業関係者の協力金により造成された基金と市町の負担金により再造林を支援し、伐採跡地への確実な造林を行うことで、循環型林業の確立に寄与した。 上記の取組み等により、持続的な林業経営の確立が図られた。	
	●「にし阿波循環型林業支援機構」の支援による造林面積（累計） ㉕— → ㉗120ha	30ha	60ha	90ha	120ha	56ha	88ha	163ha	238ha	◎		
117	低コストで造林時期を選ばず植栽可能な育苗技術の導入により、苗木の増産を推進します。	推進	→	→	→						1 本格的なコンテナ苗木生産体制を整え生産量拡大に向けた取組みを進め、地域林業の振興に寄与した。 上記の取組み等により、苗木の増産が図られた。	
	●苗木の年間生産量 ㉕— → ㉗80千本	10千本	70千本	75千本	80千本	19千本	61千本	72千本	85千本	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
118	公共施設や土木事業での木材の率先利用や木質バイオマス利用などに取り組むとともに、域内はもとより大消費地での消費拡大を推進します。	推進	→	→	→						<p>1 土木事業(木製型枠、丸太工)はもとより環境部局等でも資材(階段・フェンス)として利用を進めた。</p> <p>2 大消費地(東京、名古屋、京都、福岡)で開催された商談会等で「にし阿波材」をPRし、消費拡大に向けた取組を行い、H30年度には、2020東京リ・バウ選手村建設用として、美馬市の民有林2箇所伐採された木材を提供した。</p> <p>上記の取組み等により木材の消費拡大につながった。 一方、平成30年7月豪雨災害により幹線道が被災したことによる林道工事(公共事業)の減少等により、木製型枠などの資材使用量が減少傾向となった。 引き続き関係機関との連携を図り消費拡大を促していく。</p>	
	●公共事業における地域産材使用量 ㊦3,054m ³ → ㊦4,000m ³	3,200 m ³	3,400 m ³	3,700 m ³	4,000 m ³	3,591m ²	3,498m ²	3,750m ²	2,561m ²	△		
119	地域材の増産に向け既存林業従事者のスキルアップ研修を行い林業のプロを養成するとともに、主伐時代を担う若手林業従事者の育成に取り組めます。	推進	→	→	→						<p>1 主伐に対応する林業技術者であるプロフェッショナル育成のため技術力向上の研修を行った。</p> <p>2 H27年度より、地元高校、地元林業事業体、県民局が連携し、林業出前授業や林業体験等を実施し就業促進を図ったところ、管内の高校から4年間で13名が地元の林業事業体に就職した。 (H28:5名、H29:5名、H30:3名)</p> <p>3 H27年度に制作した林業短編映画「林こずえの業」を上映し、最新林業機械を使用した昔とは大きく変わった現在の林業の魅力を多くの人にPRした。</p> <p>上記の取組み等により、林業従事者の育成が図られた。</p>	
	●林業プロフェッショナル育成者数(累計) ㊦91人 → ㊦140人	110人	120人	130人	140人	110人	120人	131人	141人	◎		
	●新規林業就業者数(累計) ㊦25人 → ㊦75人	45人	55人	65人	75人	50人	65人	89人	102人	◎		
	●新たな担い手確保のため、「林業をPRする短編映画」による情報発信(再掲:104) ㊦～㊦推進	制作	推進	推進	推進	制作	推進	推進	推進	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記 事項
		H27	H28	H29	H30							
120	既存人材のスキルアップや新規林業就業者の育成の場を新たに設置することにより、地域林業の担い手が安心して就業できる環境づくりに取り組みます。	推進	→	→	→						<p>1 H27年度、大学生や高校生が林業に関して学ぶ場として、三好市山城町の粟山県有林にフォレストキャンパスを設置した。</p> <p>2 フォレストキャンパスを活用し、植栽や林業機械操作などの研修を、H28年度は2回、H29年度には5回開催した。</p> <p>3 H30年度は5回の開催を計画していたが7月豪雨で幹線道が寸断されたため、2回の開催にとどまった。</p> <p>上記の取組み等により、林業への就業に向けての環境づくりが図られた。</p>	
	●大学等の体験林「フォレストキャンパス三好」の創設 ⑮→⑰～⑳設置				設置				◎			
	●大学等の体験林「フォレストキャンパス三好」の活用回数（累計） ⑰→⑳10回			5回	10回	—	2回	7回	9回	○		
121	林業研究グループ等の林業団体と連携し「木にふれあい・木に学び・木で繋がる」木育活動を展開します。	推進	→	→	→						<p>1 木製遊具等を設置し木材利用への理解を深め親しんでもらう取組を行った。</p> <p>【すぎの子木育広場の設置実績】 H27：美馬認定こども園（美馬市） H28：カフェ&カルチャークレヨン（三好市） H29：アンリール（つるぎ町） H30：三好SA（東みよし町） ：四国三郎の郷（美馬市）</p> <p>上記の取組み等により、木育拠点が整備された。</p>	
	●木育拠点（すぎの子木育広場）の設置（累計） ⑮→⑳4箇所	1箇所	2箇所	3箇所	4箇所	1箇所	2箇所	3箇所	5箇所	◎		

重点項目5 活力ある地域経済の振興

中項目3 地域特性を活かした商工業の振興	数値目標達成状況	数値目標達成状況の算出	委員評価
	☆☆☆	◎7・〇〇・△0 (2×7+1×0+0×0)/7 = 2.0 → ☆☆☆	

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
122	首都圏等からサテライトオフィス関連企業や大学等を圏域に呼び込み、地元企業をはじめ多様な主体との連携により、創業や新商品開発等の新たなビジネスモデル構築に向けた取組みを推進します。	推進	→	→	→						1 H27に、「にし阿波・地域連携ビジネス創出支援事業運営協議会」を設立し、行政や商工団体等との連携により大学生やサテライトオフィス等を活用した新ビジネス創出や、地元事業者向け営業力強化セミナー等を実施。 2 特産品の販路拡大支援を推進 (H27) 学生や教育機関向けスタディツアーの造成 (H28) 学生向け体験型宿泊メニューを造成 木材を活用した阿波踊り衣装や装飾品を開発 (H29) 和菓子事業者の体験サービス開発 (H30) 山間地の茶葉を使った洋菓子開発 上記の取組み等により、新たなビジネスモデル構築が図られた。	
	●創業・新商品開発等の件数（累計） ⑮ → ⑳5件	1件	2件	3件	5件	1件	2件	4件	5件	◎		
123	加工・販売業者等を対象にビジネスセミナーや個別相談会を実施し、にし阿波ならではの魅力ある商品づくりを支援するとともに、関係事業者のマッチングを進める商談会の開催や、首都圏で開催される商談会等への参加により、販路開拓を図ります。	推進	→	→	→						1 事業者向けビジネスセミナーの開催 ・商談会シート作成セミナー（H27・28・29・30） ・販売力アップセミナー（H27） ・営業力アップセミナー（H27） ・加工食品関連基礎セミナー（H28） ・キャッシュレス決済セミナー（H30） 2 個別相談会の開催 ・特産品PR個別相談会（H27・30） 3 地域での商談会の開催 ・マッチング商談会（H27・28・29・30） 4 首都圏等での商談会への参加 ・FOODEX JAPAN（H27・28） ・「四国にし阿波たからもん物産展」 千葉県ニッケコルトンプラザ（H27） ・「NISHI-AWAくらし福らむ展」東京ビッグサイト（H27） 上記の取組み等により、魅力ある商品づくりが図られるとともに、販路の拡大が図られた。	
	●新規商談成立件数 ⑮ → ⑳30件	30件	30件	30件	30件	36件	26件	37件	32件	◎		

番号	施策・数値目標	工程（年度別事業計画）				H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	数値目標 達成度	H27～H30の成果及び取組	委員特記事項
		H27	H28	H29	H30							
124	市町や民間団体等と連携し、地域特性を活かした「企業のサテライトオフィスや情報通信関連産業」等の誘致活動を進めるとともに、お試し勤務や新たに庁舎内に整備するテレワーク拠点の利用や海外企業へのプロモーションを推進する。	推進	→	→	→						<p>1 国内外のICT企業等のお試しテレワーク勤務の誘引や、サテライトオフィス誘致を促進するため、官民連携した企業からの相談対応や視察ツアーの受入れ、地域事業者とのビジネスマッチングや、多言語による地域の魅力発信を進めた。</p> <p>2 美馬市8社、三好市7社のサテライトオフィスの開設を実現するとともに、SNS等を活用し企業の活動状況をタイムリーに配信したり、地元企業との連携支援、企業からの相談窓口を開設することで、サテライトオフィスの地域への定着支援と認知度向上を図った。</p> <p>上記の取組み等により、サテライトオフィス等開設数や当該企業への雇用者数を増やすとともに、地域におけるテレワークの普及や海外企業等への認知度向上が図られた。</p>	
	●サテライトオフィス等誘致企業での雇用者数 （累計）【主要指標】 ㉕5人→㉗100人	50人	65人	80人	100人	52人	65人	83人	102人	◎		
	●お試しサテライトオフィスの設置 ㉙設置（4箇所）			設置 （4箇所）				設置 （9箇所）	設置 （9箇所）	◎		
	●お試しサテライトオフィスの利用者数 ㉕→延べ100人				延べ 100人				延べ 108人	◎		
	●庁内テレワーク拠点の利用者数 ㉕→延べ100人				延べ 100人				延べ 122人	◎		
	●海外企業等へのプロモーション数 ㉕→延べ30件				延べ 30件				延べ 35件	◎		